

米に関するマンスリーレポート

(平成29年11月号)



香川県産米を使った「親子おにぎり教室」の様子

「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！
http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト (平成29年9月8日公表)

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地 (産地)

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地 (法人・団体) を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大

目標：10万トン^(※)

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

○ 趣旨

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題です。

農林水産省は、平成29年9月8日（金曜日）、コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、農林水産大臣の下、「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」を立ち上げました。

この度、以下のとおり平成29年10月末時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況を取りまとめましたのでお知らせします。

○ 本プロジェクトの参加状況

平成29年10月末時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおり。

(ア)戦略的輸出事業者 33事業者（目標数量合計 12.5万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

(1)団体・法人 181産地

(2)都道府県単位の集荷団体等 18団体

（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）

(3)全国単位の集荷団体等 1団体

（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、オーストラリア、ロシア、中東

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

○ 今後の取組方針

別添リスト（以下URL参照）の**戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との結びつけ・マッチングを推進**します。この取組を踏まえ、相互の連携先に関する情報、輸出用米生産の目標数量等を追記し、来年1月を目途にリストを更新します。

さらに、各戦略的輸出基地及び戦略的輸出事業者において、マッチングにおける取引情報（価格帯や輸出可能数量）に基づき、**各県・地域の水田フル活用ビジョンの検討と並行して30年産米における輸出用米の生産数量や品種等の調整を進め、取組の具体化を推進**します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要な事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン（輸出事業者用）」の提出先

100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官庁
農産企画課企画班 近藤、林、福江
E-mail:kome_yusyutu@maff.go.jp
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-8976

「コメ輸出産地取組方針（産地の団体・法人用）」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官庁
穀物課稲生産班 美保、谷口、平岡、安部
E-mail:kome_santi@maff.go.jp
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

応募様式等詳細は、農林水産省ホームページの下記URLを参照ください。

http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/kikaku/171031.html

今の特集

平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

（平成29年10月31日公表）

- ・ 主食用作付見込面積は137万ha（前年産差 1.1万ha）の見込み
- ・ 10a当たり予想収量は534kg（前年産差 10kg）の見込み

調査結果の概要

- 1 平成29年産水稻の作付面積（子実用）は146.5万haとなり、前年産に比べ1.3万ha減少した。うち主食用作付見込面積は137万haとなり、前年産に比べ1.1万haの減少が見込まれる。
- 2 全国の10a当たり予想収量は534kgとなり、作柄の良かった前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100となる見込み。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は782.5万トンとなり、前年産に比べ21.7万トンの減少が見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は730.9万トンとなり、前年産に比べ18.7万トンの減少が見込まれる。

平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全国農業地域	作付面積（子実用）			10a当たり予想収量		予想収穫量（子実用）			参 考		
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況 指数
		対 差	対 比				対 差	対 比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,465,000	△ 13,000	99	534	△ 10	7,825,000	△ 217,000	97	1,370,000	7,309,000	100
北 海 道	103,900	△ 1,100	99	560	9	581,800	3,200	101	98,600	552,200	103
東 北	374,800	△ 1,100	100	564	△ 12	2,115,000	△ 50,000	98	334,300	1,882,000	99
北 陸	204,100	△ 1,500	99	529	△ 38	1,079,000	△ 86,000	93	180,100	952,100	98
関 東・東 山	268,500	△ 2,000	99	533	△ 9	1,431,000	△ 34,000	98	257,400	1,372,000	98
東 海	92,400	△ 1,000	99	498	△ 16	460,100	△ 20,200	96	90,500	450,000	99
近 畿	103,200	△ 1,300	99	511	△ 5	526,900	△ 11,800	98	99,400	507,400	101
中 国	104,300	△ 1,700	98	530	4	552,600	△ 4,700	99	101,200	536,200	103
四 国	49,900	△ 1,000	98	486	△ 6	242,300	△ 8,200	97	49,500	240,900	101
九 州	163,100	△ 2,600	98	511	4	833,800	△ 5,900	99	158,700	813,200	101
沖 縄	727	△ 58	93	305	12	2,220	△ 80	97	727	2,220	98

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平均収量を用いた。

4 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成24年産	100.0	0.6	1.0	1.5	2.2	13.0	81.7
25	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29(概数値)	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.2	76.4
平均値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.5	14.3	79.4
対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.3	0.4	1.9	△ 3.0

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる(以下同じ。)

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産		単位	ふるい目幅別重量割合					
			1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
平成24年産	10a 当たり収量	kg	540	537	531	523	511	441
	収穫量	t	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29 (概数値)	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	408
	収穫量	t	7,825,000	7,755,000	7,637,000	7,473,000	7,246,000	5,978,000
	対前年比	%	97	97	97	96	96	93

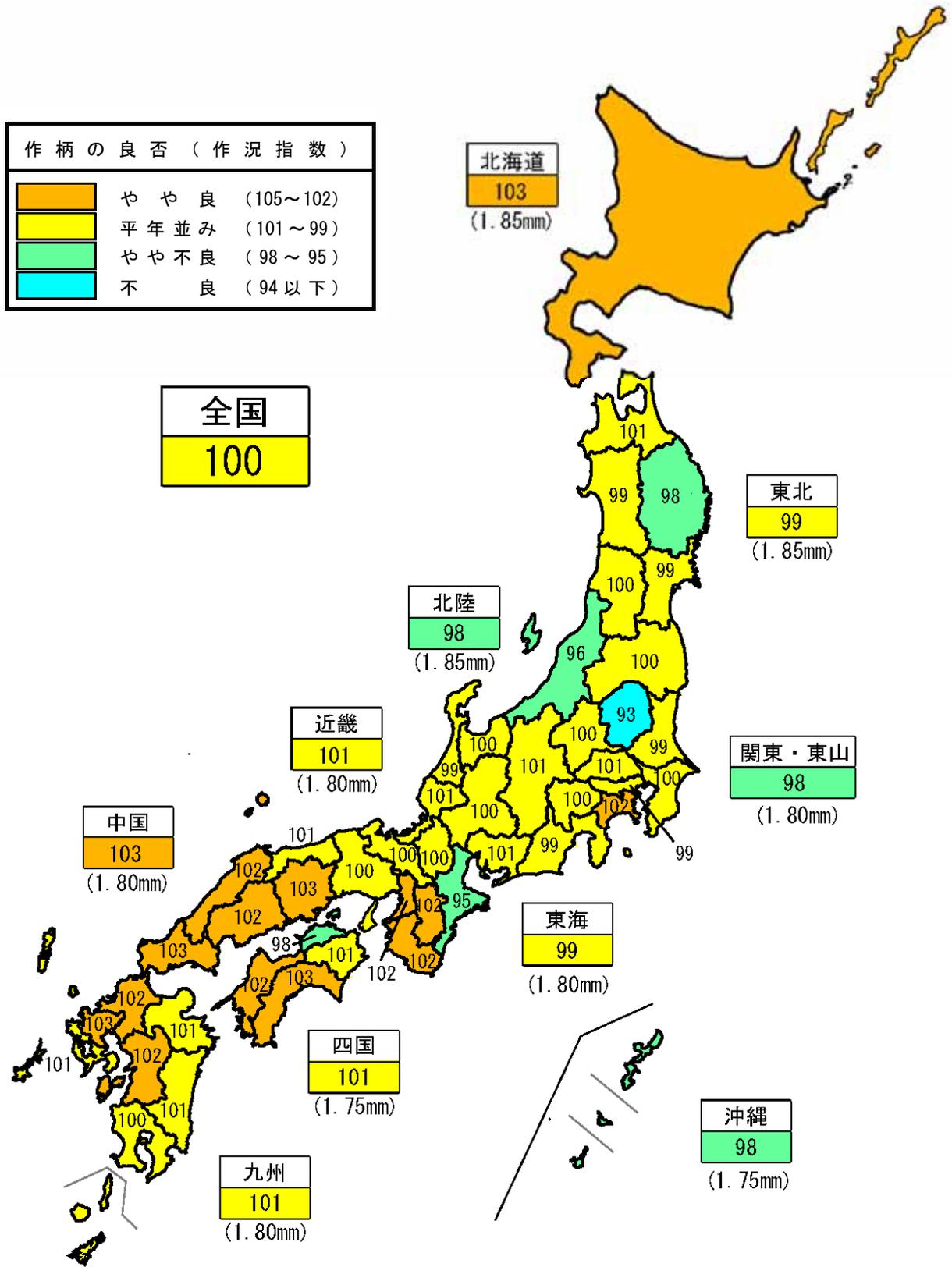
注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

- ・ [都道府県別の平成29年産水稲の作付面積及び予想収穫量](#)については、54頁に掲載。
- ・ 「平成29年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y

全国農業地域・都道府県別作況指数（10月15日現在）

【農家等が使用しているふり目幅ベース】



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5年間に農家等が実際に使用したふり目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

目次

特集 平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在) (平成29年10月31日公表)

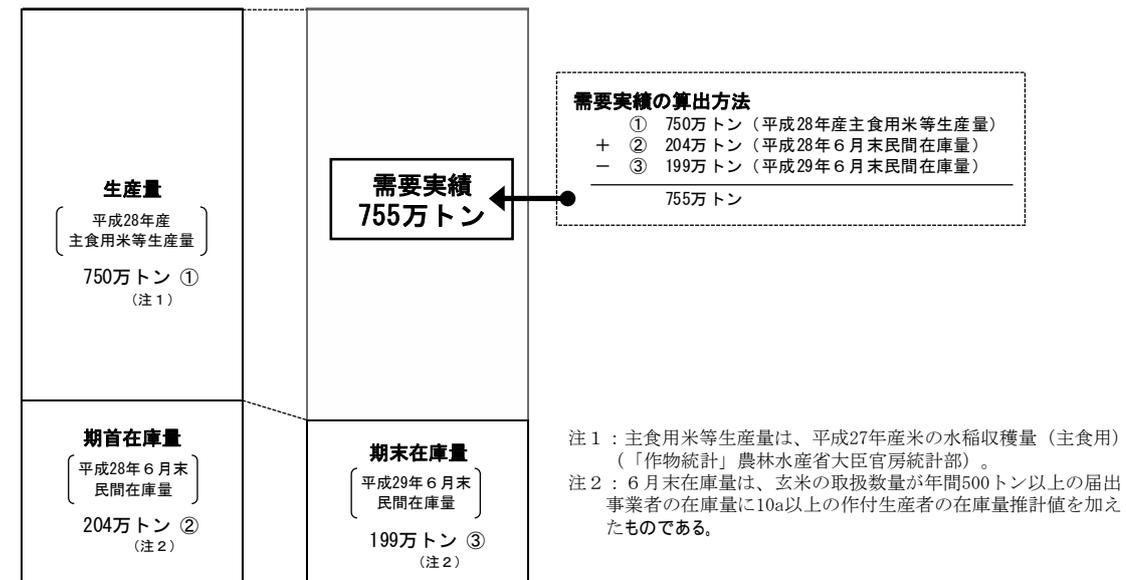
I	米の需給・契約・販売	
1	主食用米等の需給見通し(米の基本指針(平成29年7月31日))	
(1)	平成28/29年の需要実績(速報値)	1
(2)	平成29/30年の需要見通し(推計値)	1
(3)	平成29/30年の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果	4
(2)	平成29年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米、平成29年9月末現在)	5
(3)	産地別事前契約数量	8
II	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移(うるち米、平成23年7月末～平成29年9月末)(速報)	10
(2)	産地別民間在庫の状況(前年同月比)	12
(3)	平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成29年7月末から平成30年6月末)(速報)	15
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格(年産別)	21
(2)	価格帯別分析結果(平成29年9月)	22
(3)	相対取引価格・数量(平成28年産米、産地品種銘柄別、平成29年9月分)	23
(4)	スポット価格の状況	26
2	米の先物取引価格の推移	27
3	米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年10月分)	28
IV	主食用米以外(輸出を含む)	
1	29年産米の作付状況	
(1)	29年産米の用途別作付面積及び生産量	30
(2)	主食用米以外の取組状況(作付面積及び作付面積比率)	30
(3)	新規需要米の用途別認定状況	30
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	31
3	飼料用米の需要量	32
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	34
5	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	35
V	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	36
(2)	畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)	40
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)	42
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	44
VI	消費動向	
(1)	米の消費動向(米穀機構による調査)	46
(2)	購入数量の推移(家計調査)	47
(3)	消費者物価指数の推移	48
(4)	小売物価統計の推移	49
(5)	小売価格の推移(POSデータ)	50
VII	MA米(一般・SBS)の動向	
(1)	MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)	51
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)	52
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)	52
VIII	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	53
(2)	平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)	54

I 米の需給・契約・販売

1 主食用米等の需給見通し（米の基本指針(平成29年7月31日)）

(1) 平成28/29年の需要実績（速報値）

- 平成28/29年（平成28年7月から平成29年6月までの1年間）の需要実績（速報値）は、755万トンと平成27/28年（766万トン）から▲11万トンの減少となった。
- 平成29年6月末民間在庫量は、5年ぶりに200万トンを下回る199万トンとなった。

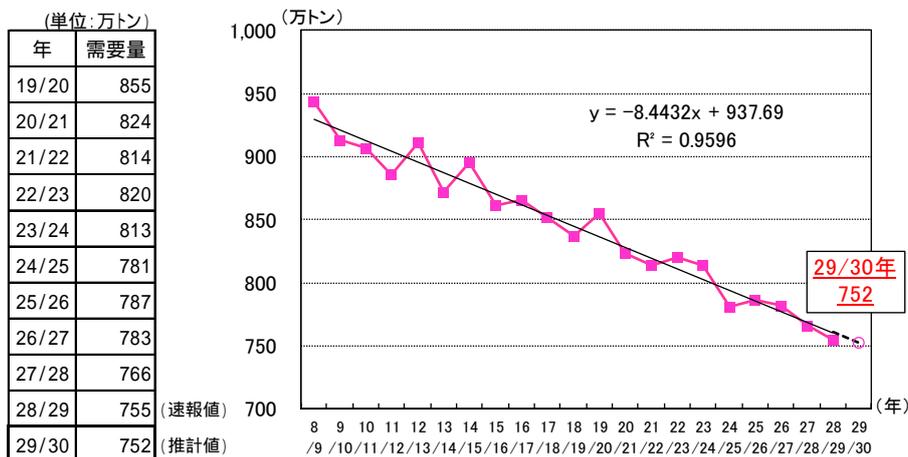


（参考：6月末民間在庫量の推移）

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年 (速報値)
民間在庫	213	175	182	184	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199

(2) 平成29/30年の需要見通し（推計値）

- 平成29/30年の需要見通しについては、平成8/9年から平成28/29年までの需要実績を用いてトレンドで算出し、752万トンと見通す。



(3) 平成29/30年の需給見通し

- 平成29/30年の需給見通しについては、「平成29年6月末民間在庫量199万トン」、「平成29/30年の需要見通し752万トン」を踏まえると、下の表のようになり、平成30年6月末民間在庫量は、平成29年産が生産数量目標どおりの生産量となった場合は182万トン、自主的取組参考値どおりの生産量となった場合は180万トンと見通される。

		(単位:万トン)	
平成29年6月末民間在庫量	A	199	199
平成29年産主食用米等生産量	B	735 (生産数量目標)	733 (自主的取組参考値)
平成29/30年主食用米等供給量計	C=A+B	934	932
平成29/30年主食用米等需要量	D	752	752
平成30年6月末民間在庫量	E=C-D	182	180

< 平成29年産米の生産数量目標等の考え方 >

[生産数量目標]

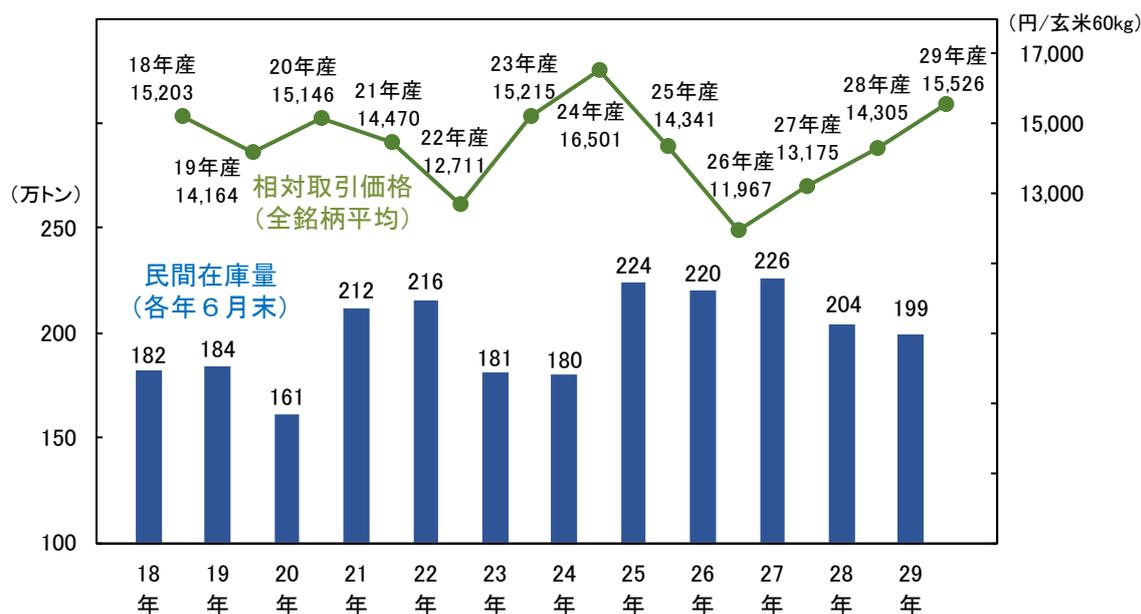
近年のトレンドとして需要が毎年概ね8万トン減少していることを勘案し、平成28年産米の生産数量目標743万トンから8万トンを控除した735万トンと設定。

[自主的取組参考値]

平成30年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)となるものとして、733万トンと設定。

(参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量(生産、出荷、販売段階における在庫量)の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(28年産は平成29年8月)までの通年平均価格(平成29年産は平成29年9月の平均)であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。(28年産及び29年産は速報ベース)

表 平成29年産米の都道府県別の生産数量目標等

(単位:トン、ha)

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	29年産生産数量目標		29年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
全国計	100%	735万トン	139万ha	733万トン	138万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	535,669	99,015	534,212	98,745
青森	242,460 / 7,510,000	237,294	40,494	236,649	40,384
岩手	271,210 / 7,510,000	265,432	49,706	264,710	49,571
宮城	348,620 / 7,510,000	341,193	64,255	340,264	64,080
秋田	417,540 / 7,510,000	408,644	71,317	407,532	71,123
山形	344,500 / 7,510,000	337,160	56,666	336,243	56,511
福島	339,550 / 7,510,000	332,316	61,313	331,412	61,146
茨城	337,370 / 7,510,000	330,182	63,012	329,284	62,840
栃木	298,690 / 7,510,000	292,326	54,134	291,531	53,987
群馬	75,670 / 7,510,000	74,058	14,961	73,856	14,920
埼玉	151,270 / 7,510,000	148,047	30,214	147,644	30,131
千葉	246,490 / 7,510,000	241,239	45,091	240,582	44,969
東京	770 / 7,510,000	754	183	752	183
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,093	2,859	14,055	2,851
新潟	521,290 / 7,510,000	510,184	94,304	508,796	94,047
富山	185,650 / 7,510,000	181,695	33,710	181,200	33,618
石川	123,630 / 7,510,000	120,996	23,313	120,667	23,250
福井	125,460 / 7,510,000	122,787	23,658	122,453	23,594
山梨	27,430 / 7,510,000	26,846	4,908	26,773	4,895
長野	194,000 / 7,510,000	189,867	30,574	189,350	30,491
岐阜	111,270 / 7,510,000	108,899	22,315	108,603	22,255
静岡	82,920 / 7,510,000	81,153	15,576	80,933	15,534
愛知	134,970 / 7,510,000	132,094	26,054	131,735	25,983
三重	143,510 / 7,510,000	140,453	28,091	140,070	28,014
滋賀	160,450 / 7,510,000	157,032	30,315	156,604	30,232
京都	75,930 / 7,510,000	74,312	14,542	74,110	14,503
大阪	26,220 / 7,510,000	25,661	5,184	25,592	5,170
兵庫	180,440 / 7,510,000	176,596	35,178	176,115	35,083
奈良	41,690 / 7,510,000	40,802	7,954	40,691	7,932
和歌山	34,850 / 7,510,000	34,108	6,891	34,015	6,872
鳥取	66,110 / 7,510,000	64,702	12,588	64,525	12,554
島根	90,000 / 7,510,000	88,083	17,305	87,843	17,258
岡山	158,550 / 7,510,000	155,172	29,500	154,750	29,420
広島	129,970 / 7,510,000	127,201	24,321	126,855	24,255
山口	108,760 / 7,510,000	106,443	21,120	106,153	21,062
徳島	58,540 / 7,510,000	57,293	12,087	57,137	12,054
香川	70,240 / 7,510,000	68,744	13,776	68,556	13,739
愛媛	73,920 / 7,510,000	72,345	14,527	72,148	14,488
高知	50,070 / 7,510,000	49,003	10,699	48,870	10,670
福岡	182,470 / 7,510,000	178,582	35,932	178,097	35,834
佐賀	138,420 / 7,510,000	135,471	26,102	135,102	26,031
長崎	62,850 / 7,510,000	61,511	12,842	61,344	12,807
熊本	189,310 / 7,510,000	185,277	36,116	184,773	36,018
大分	117,690 / 7,510,000	115,183	22,945	114,869	22,882
宮崎	93,600 / 7,510,000	91,606	18,469	91,357	18,419
鹿児島	111,070 / 7,510,000	108,704	22,553	108,408	22,491
沖縄	2,860 / 7,510,000	2,799	906	2,791	903

注1: 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(平成27年11月)において、平成27年産米の都道府県別のシェアを固定し、当該シェアで按分して平成29年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値とする旨を公表済み。

注2: 端数処理の結果、合計値は一致しない。

2 米の契約・販売

(1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成29年産

(単位:トン)

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果								29年産 落札合計 数量
		第1回 平成29年 1月31日実施	第2回 平成29年 2月14日実施	第3回 平成29年 2月28日実施	第4回 平成29年 3月14日実施	第5回 平成29年 3月28日実施	第6回 平成29年 4月25日実施	第7回 平成29年 5月30日実施	第8回 平成29年 6月20日実施	
北海道	7,130	0	0	0						0
青森	12,271	10,360	1,911	0						12,271
岩手	5,229	5,229	0	0						5,229
宮城	6,368	306	6,062	0						6,368
秋田	17,039	17,039	0	0						17,039
山形	11,753	11,753	0	0						11,753
福島	16,443	16,443	0	0						16,443
茨城	600	600	0	0						600
栃木	5,167	3,558	1,609	0						5,167
群馬	12	12	0	0						12
埼玉	296	156	140	0						296
千葉	748	748	0	0						748
東京										
神奈川										
新潟	17,365	326	17,039	0						17,365
富山	7,947	7,947	0	0						7,947
石川	3,348	86	3,262	0						3,348
福井	2,187	20	2,167	0						2,187
山梨										
長野	585	103	482	0						585
岐阜	348	10	338	0						348
静岡	20	0	0	20						20
愛知	493	0	0	493						493
三重	422	0	422	0						422
滋賀	876	21	855	0						876
京都										
大阪										
兵庫	18	0	0	0						0
奈良										
和歌山										
鳥取	535	10	525	0						535
島根	67	0	67	0						67
岡山	1,408	1,373	35	0						1,408
広島										
山口										
徳島	337	130	207	0						337
香川										
愛媛	51	0	51	0						51
高知	10	0	10	0						10
福岡	139	10	129	0						139
佐賀	327	0	0	327						327
長崎	18	0	18	0						18
熊本	247	247	0	0						247
大分	196	0	169	0						169
宮崎										
鹿児島										
沖縄										
都道府県別枠計	120,000	76,487	35,498	840						112,825
指定無し	80,000	71,032	8,968	3,477	160	219	427	214	406	84,903
合計	200,000	147,519	44,466	4,317	160	219	427	214	406	197,728

(2) 平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計・うるち米、平成29年9月末現在）

29年産米の「契約比率」及び「販売比率」（集荷数量に対する進捗状況）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量（北海道から千葉まで）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
北海道	42.4	186.0	4.9	▲ 15%	+ 7%	▲ 23%
ななつぼし	17.1	101.4	1.9	▲ 31%	+ 4%	▲ 28%
ゆめぴりか	22.8	43.9	2.0	+ 24%	+ 20%	+ 19%
きらら397	0.5	19.2	-	▲ 40%	▲ 12%	…
青森	8.4	55.9	0.5	▲ 61%	+ 7%	▲ 49%
まっしぐら	1.2	30.6	0.0	▲ 81%	▲ 2%	▲ 93%
つがるロマン	2.5	16.6	0.1	▲ 75%	+ 3%	▲ 58%
岩手	1.0	93.0	0.1	▲ 90%	+ 1%	▲ 81%
ひとめぼれ	0.6	70.9	0.1	▲ 93%	▲ 1%	▲ 85%
あきたこまち	0.1	13.5	-	▲ 90%	▲ 12%	…
いわてっこ	-	1.9	-	…	+ 4%	…
宮城	12.9	124.5	0.9	▲ 53%	+ 10%	▲ 40%
ひとめぼれ	11.4	107.6	0.8	▲ 52%	+ 8%	▲ 42%
つや姫	0.0	7.8	-	▲ 91%	+ 10%	…
ササニシキ	1.0	5.6	0.1	▲ 45%	+ 9%	▲ 12%
秋田	25.5	93.9	2.6	▲ 59%	+ 9%	▲ 35%
あきたこまち	25.2	79.4	2.6	▲ 58%	+ 3%	▲ 35%
めんこいな	0.0	0.6	-	▲ 95%	▲ 70%	…
ひとめぼれ	0.0	11.9	-	▲ 96%	+ 162%	…
山形	10.8	66.4	0.6	▲ 61%	+ 40%	▲ 54%
はえぬき	6.6	34.5	0.4	▲ 61%	+ 48%	▲ 44%
つや姫	0.1	19.5	0.0	▲ 91%	+ 40%	▲ 87%
ひとめぼれ	2.0	7.5	0.1	▲ 62%	+ 7%	▲ 71%
福島	4.4	47.3	0.2	▲ 46%	▲ 15%	▲ 48%
コシヒカリ中通り	0.5	3.9	-	+ 219%	▲ 23%	…
コシヒカリ会津	0.8	28.5	-	▲ 57%	▲ 7%	…
コシヒカリ浜通り	0.3	3.6	-	+ 21%	▲ 25%	…
ひとめぼれ	2.0	8.6	0.1	▲ 34%	▲ 30%	+ 144%
天のつぶ	0.1	0.8	-	▲ 65%	▲ 24%	…
茨城	38.3	30.7	6.0	▲ 16%	▲ 29%	+ 2%
コシヒカリ	27.2	24.0	2.6	▲ 21%	▲ 27%	+ 3%
あきたこまち	8.2	5.6	3.1	+ 3%	▲ 36%	+ 0%
ゆめひたち	0.1	-	-	▲ 23%	…	…
栃木	58.6	62.5	1.8	+ 6%	▲ 6%	+ 24%
コシヒカリ	53.4	57.4	1.7	+ 6%	▲ 7%	+ 25%
あさひの夢	0.2	1.0	0.0	+ 42%	▲ 42%	…
なすひかり	3.4	2.1	0.1	▲ 4%	+ 59%	+ 4%
群馬	0.5	0.1	0.0	+ 40%	+ 446%	▲ 18%
あさひの夢	0.2	0.1	-	+ 155%	…	…
ゆめまつり	0.0	-	-	+ 227%	…	…
埼玉	6.1	8.4	0.2	+ 10%	+ 1%	+ 21%
彩のかがやき	0.1	3.6	-	+ 2125%	▲ 6%	…
コシヒカリ	4.9	3.7	0.1	+ 1%	+ 3%	▲ 1%
彩のきずな	0.9	0.9	0.0	+ 79%	+ 48%	…
千葉	61.7	46.8	15.1	▲ 13%	▲ 9%	+ 7%
コシヒカリ	30.8	26.1	6.4	▲ 22%	▲ 14%	+ 3%
ふさこがね	12.5	8.4	2.3	▲ 5%	▲ 17%	+ 23%
ふさおとめ	14.6	10.5	5.7	▲ 4%	+ 2%	+ 4%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるち米及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考：前年同月比」で、現時点において29年産又は28年産に数量がなかった場合は、「…」としている。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考:前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
東京	-	-	-
神奈川	0.2	0.0	0.0	+ 41%	▲ 24%	▲ 24%
山梨	1.2	0.0	0.0	+ 108%
コシヒカリ	1.0	-	-	+ 123%
あさひの夢	0.0	-	-
長野	14.9	30.9	0.9	+ 13%	+ 10%	▲ 10%
コシヒカリ	11.6	24.3	0.6	+ 13%	+ 14%	▲ 12%
あきたこまち	1.2	3.6	0.2	+ 44%	+ 1%	+ 1%
静岡	5.6	3.2	0.7	▲ 3%	+ 318%	▲ 7%
コシヒカリ	4.9	2.7	0.7	▲ 2%	+ 278%	▲ 7%
きぬむすめ	0.3	-	-	▲ 7%
あいちのかおり	-	-	-
新潟	131.4	162.6	11.4	▲ 22%	▲ 2%	▲ 17%
コシヒカリ一般	79.6	92.5	5.1	▲ 22%	▲ 2%	▲ 9%
コシヒカリ魚沼	10.1	12.7	1.1	+ 2%	+ 30%	▲ 14%
コシヒカリ岩船	2.0	10.1	0.2	▲ 45%	+ 0%	▲ 56%
コシヒカリ佐渡	3.7	11.9	0.4	▲ 29%	▲ 7%	▲ 47%
こしいぶき	24.9	20.1	3.0	▲ 17%	▲ 21%	▲ 17%
富山	54.9	53.6	5.0	▲ 19%	+ 9%	▲ 6%
コシヒカリ	44.5	46.4	3.6	▲ 19%	+ 13%	▲ 10%
てんたかく	6.3	3.9	1.1	▲ 20%	▲ 9%	+ 12%
石川	17.5	24.4	0.4	▲ 33%	▲ 7%	▲ 18%
コシヒカリ	11.2	17.7	0.2	▲ 36%	+ 0%	▲ 46%
ゆめみづほ	4.6	4.1	0.2	▲ 29%	▲ 44%	+ 131%
福井	34.1	21.0	5.9	▲ 1%	+ 30%	+ 13%
コシヒカリ	14.0	7.5	2.1	+ 8%	+ 25%	+ 30%
ハナエチゼン	14.0	8.7	3.4	▲ 14%	+ 42%	+ 1%
岐阜	4.3	16.1	1.1	▲ 26%	+ 20%	▲ 42%
ハツシモ	-	7.1	-	...	+ 10%	...
コシヒカリ	1.7	4.6	0.2	▲ 35%	+ 96%	▲ 20%
あきたこまち	1.7	1.5	0.8	▲ 2%	▲ 15%	▲ 41%
愛知	7.6	15.2	1.7	▲ 12%	▲ 5%	▲ 21%
あいちのかおり	0.0	6.5	-	+ 19%	+ 0%	...
コシヒカリ	6.0	6.8	1.0	▲ 7%	▲ 9%	▲ 1%
大地の風	-	0.7	-	...	+ 47%	...
三重	19.9	20.0	3.0	▲ 9%	+ 13%	+ 25%
コシヒカリ一般	11.8	11.5	1.8	▲ 14%	+ 15%	+ 36%
コシヒカリ伊賀	4.3	4.2	0.5	+ 4%	+ 10%	▲ 7%
キヌヒカリ	1.4	1.1	0.0	▲ 5%	+ 32%	+ 59%
滋賀	28.9	55.3	4.5	▲ 12%	▲ 2%	▲ 1%
コシヒカリ	10.9	21.7	1.6	▲ 15%	▲ 11%	+ 21%
キヌヒカリ	5.5	11.1	0.6	▲ 23%	+ 4%	▲ 29%
日本晴	1.8	5.0	0.1	+ 3%	+ 107%	▲ 23%
京都	5.6	8.1	0.6	+ 40%	▲ 10%	+ 1%
コシヒカリ	4.3	5.3	0.4	+ 54%	▲ 11%	+ 4%
キヌヒカリ	1.2	2.4	0.1	+ 7%	▲ 8%	▲ 14%
大阪	-	-	-
兵庫	13.2	29.2	1.2	▲ 11%	+ 90%	+ 10%
コシヒカリ	10.2	7.5	1.0	▲ 10%	+ 407%	+ 34%
ヒノヒカリ	-	1.4	-
キヌヒカリ	1.7	1.3	-	▲ 7%	+ 763%	▲ 100%
奈良	1.0	1.0	0.3	▲ 6%	▲ 6%	+ 97%
ヒノヒカリ	0.0	0.0	-	▲ 50%	▲ 50%	...
コシヒカリ	0.4	0.4	0.1	▲ 12%	▲ 12%	+ 184%
和歌山	0.6	1.8	0.0	▲ 42%	+ 4%	+ 345%
鳥取	4.4	6.4	0.9	+ 10%	▲ 5%	▲ 12%
コシヒカリ	2.5	1.5	0.4	+ 28%	▲ 13%	▲ 3%
きぬむすめ	0.0	2.1	-	+ 0%	+ 5%	...
ひとめぼれ	1.8	2.7	0.6	▲ 7%	▲ 4%	▲ 17%

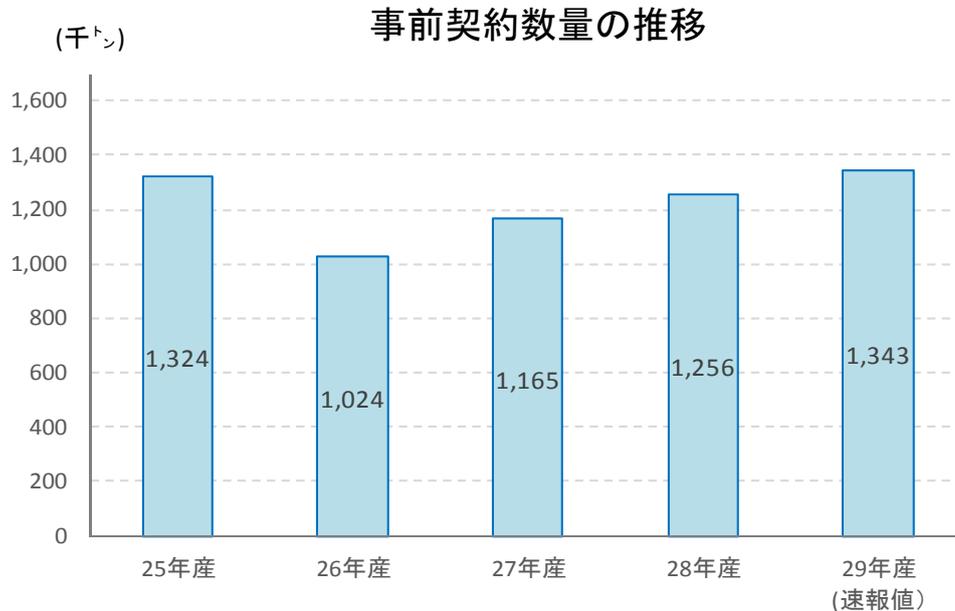
集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考:前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
島 根	27.0	24.8	2.0	+ 60%	▲ 23%	+ 10%
コシヒカリ	17.6	9.9	1.2	+ 49%	▲ 34%	+ 11%
きぬむすめ	3.4	9.0	0.1	+ 238%	▲ 21%	▲ 54%
つや姫	3.8	3.7	0.2	+ 73%	+ 3%	+ 6%
岡 山	1.6	1.5	0.6	+ 60%	▲ 45%	+ 60%
アケボノ	-	-	-
あきたこまち	0.5	0.4	0.2	+ 20%	▲ 69%	+ 4%
ヒノヒカリ	-	-	-
広 島	15.4	29.3	1.5	+ 16%	+ 4%	+ 10%
コシヒカリ	10.4	13.6	1.1	+ 9%	▲ 3%	+ 17%
あきらまん	0.1	2.9	0.0	+ 97%	▲ 17%	+ 13%
ヒノヒカリ	0.0	1.0	-	+ 300%	▲ 53%	...
山 口	12.7	24.6	0.7	+ 11%	+ 0%	▲ 21%
コシヒカリ	6.7	8.2	0.5	+ 14%	+ 2%	▲ 21%
ひとめぼれ	5.2	5.4	0.2	+ 5%	+ 0%	▲ 34%
ヒノヒカリ	0.0	5.6	-	▲ 48%	▲ 1%	...
徳 島	5.1	1.8	0.9	▲ 9%	+ 0%	▲ 23%
コシヒカリ	2.8	1.2	0.6	▲ 16%	+ 4%	▲ 25%
キヌヒカリ	1.4	0.4	0.1	▲ 13%	+ 0%	▲ 17%
香 川	3.8	14.1	0.7	▲ 24%	+ 9%	▲ 1%
ヒノヒカリ	-	5.9	-	...	+ 6%	...
コシヒカリ	3.5	5.5	0.7	▲ 25%	+ 25%	+ 1%
愛 媛	3.6	1.7	0.7	▲ 30%	+ 77%	▲ 12%
コシヒカリ	3.1	0.7	0.6	▲ 25%	▲ 1%	▲ 12%
ヒノヒカリ	-	-	-
あきたこまち	0.4	0.1	0.1	▲ 49%	▲ 5%	▲ 9%
高 知	6.5	4.4	2.3	+ 10%	+ 66%	+ 0%
コシヒカリ	5.7	3.5	1.8	+ 10%	+ 93%	+ 0%
ヒノヒカリ	0.0	-	-	+ 177%
福 岡	5.8	33.6	1.1	▲ 9%	+ 6%	▲ 29%
夢つくし	5.4	11.1	1.1	▲ 7%	+ 10%	▲ 27%
ヒノヒカリ	-	10.1	-	...	+ 0%	...
元気つくし	0.1	12.0	-	▲ 50%	+ 8%	...
佐 賀	6.5	27.6	1.7	+ 38%	+ 70%	+ 8%
さがびより	-	10.4	-	...	+ 134%	...
夢しずく	3.3	8.0	0.5	+ 97%	+ 43%	+ 17%
ヒノヒカリ	-	6.5	-	...	+ 36%	...
長 崎	1.6	4.4	0.4	▲ 7%	+ 1069%	+ 16%
ヒノヒカリ	-	1.2	-
にこまる	-	1.7	-
コシヒカリ	1.2	1.1	0.3	▲ 1%	+ 276%	+ 21%
熊 本	4.9	18.4	2.3	+ 3%	+ 572%	+ 27%
ヒノヒカリ	0.1	5.3	0.0	▲ 30%	+ 3675%	...
森のくまさん	-	-	-
コシヒカリ	3.9	5.3	1.6	+ 5%	+ 161%	+ 23%
大 分	0.7	3.3	0.4	▲ 13%	+ 621%	+ 124%
ヒノヒカリ	0.0	2.2	-
ひとめぼれ	0.0	0.0	0.0	▲ 68%	▲ 28%	+ 140%
宮 崎	10.5	9.9	10.4	+ 8%	+ 2%	+ 8%
コシヒカリ	9.9	9.9	9.9	+ 6%	+ 6%	+ 6%
ヒノヒカリ	0.0	-	0.0
鹿 児 島	5.8	5.8	5.8	+ 13%	+ 13%	+ 16%
ヒノヒカリ	-	-	-
あきほなみ	-	-	-
コシヒカリ	3.9	3.9	3.9	+ 14%	+ 14%	+ 18%
沖 縄	1.4	1.4	1.2	▲ 3%	▲ 3%	▲ 3%
全 国 ①	737	1,477	109	▲ 19%	+ 5%	▲ 11%
参 考	前年同月(28年産)②	909	1,403	123		
前年同月差(①-②)	▲ 172	74	▲ 14			

(3) 産地別事前契約数量

- 事前契約数量は、3年続けて増加、平成29年産米では、前年産に比べ9万トン多い134万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕



生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。

農業生産法人

- 経営安定のため、事前契約率を高めたい。
- 販売先だけでなく、事前に価格が決まっているのは生産者にとってありがたい。
- 概ね年内中に引き取ってくれるので余計なコスト負担がない。

契約

双方がウィンウィンの取引に！

炊飯事業者

- 安定的な数量の確保。
- 食味の良さと品質のバラつきのなさを実感。
- 品種に応じて白飯や酢飯に使い分けている。
- 業務用といっても安ければいいということではなく、一定の価格で安定取引ができる。

産地別事前契約及び複数年契約の状況

29年産米の「事前契約比率」（集荷数量に対する事前契約数量の比率）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

（単位：千玄米^ト）

産地	平成28年産（平成29年8月末現在）					平成29年産（平成29年9月末現在）	
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 〔平成29年9月末時点〕 ④	事前契約数量 ⑤
北海道	356.9	169.6	48%	43.4	12%	42.4	183.0
青森	140.5	45.1	32%	32.9	23%	8.4	55.2
岩手	139.8	91.1	65%	84.7	61%	1.0	92.9
宮城	181.0	112.0	62%	84.5	47%	12.9	124.2
秋田	271.0	83.2	31%	57.4	21%	25.5	92.2
山形	222.5	52.3	23%	1.5	1%	10.8	65.4
福島	169.4	52.0	31%	26.1	15%	4.4	47.2
茨城	77.6	27.6	36%	-	-	38.3	24.8
栃木	141.6	60.3	43%	49.5	35%	58.6	60.3
群馬	21.8	-	-	-	-	0.5	0.1
埼玉	22.3	8.2	37%	-	-	6.1	8.2
千葉	79.6	31.3	39%	2.2	3%	61.7	28.5
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.9	-	-	-	-	0.2	-
山梨	6.3	-	-	-	-	1.2	-
長野	72.5	26.3	36%	23.7	33%	14.9	27.4
静岡	7.2	-	-	-	-	5.6	2.5
新潟	285.2	141.3	50%	87.4	31%	131.4	147.3
富山	111.6	43.7	39%	-	-	54.9	46.1
石川	33.9	20.1	59%	1.6	5%	17.5	23.9
福井	65.0	6.8	10%	6.8	10%	34.1	6.8
岐阜	27.5	12.0	44%	-	-	4.3	15.1
愛知	37.3	15.1	40%	-	-	7.6	14.5
三重	31.9	17.8	56%	-	-	19.9	19.5
滋賀	65.6	46.8	71%	36.0	55%	28.9	49.0
京都	14.4	8.0	55%	0.3	2%	5.6	8.0
大阪	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	41.0	-	-	-	-	13.2	10.0
奈良	9.2	-	-	-	-	1.0	-
和歌山	2.1	1.7	83%	-	-	0.6	1.8
鳥取	22.1	6.0	27%	-	-	4.4	5.4
島根	39.4	31.9	81%	0.8	2%	27.0	24.6
岡山	15.0	-	-	-	-	1.6	-
広島	33.7	27.0	80%	2.0	6%	15.4	27.3
山口	32.0	24.3	76%	0.6	2%	12.7	24.4
徳島	6.1	-	-	-	-	5.1	0.9
香川	26.6	12.9	49%	-	-	3.8	14.1
愛媛	12.6	-	-	-	-	3.6	0.9
高知	6.5	1.1	18%	-	-	6.5	2.1
福岡	55.4	30.3	55%	-	-	5.8	32.3
佐賀	43.8	25.2	58%	-	-	6.5	26.4
長崎	11.7	-	-	-	-	1.6	4.0
熊本	38.2	16.0	42%	-	-	4.9	15.3
大分	14.5	1.5	10%	-	-	0.7	2.8
宮崎	16.3	8.4	51%	-	-	10.5	8.6
鹿児島	14.9	-	-	-	-	5.8	-
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.4	-
全国	3,072	1,256	41%	542	18%	737	1,343

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
 2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
 3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。
 4 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。
 5 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。
 6 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

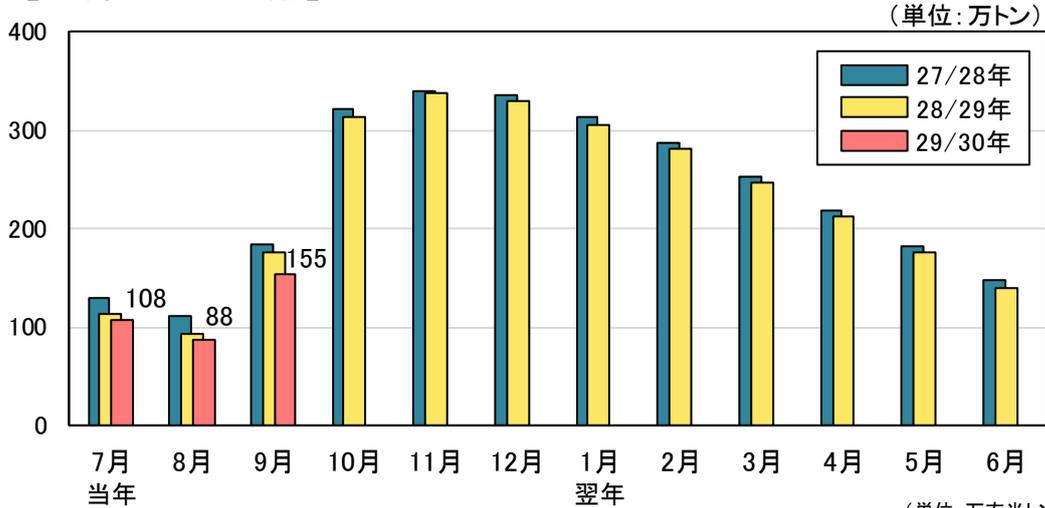
Ⅱ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成29年9月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲22万トンの155万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、13頁以降参照。

【出荷＋販売段階】



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	313	338	329	306	282	248	213	177	140
対前年差	▲16	▲19	▲8	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲6	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	263	233	201	168	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155									
対前年差	▲6	▲5	▲22									
29年産米	1	15	104									
1年古米(28年産)	103	71	48									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲13	▲17	▲12	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	107	239	268	265	252	230	197	167	140	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	85	66	124									
対前年差	▲4	▲3	▲20									
29年産米	0	11	89									
1年古米(28年産)	83	55	35									

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	28
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	30									
対前年差	▲2	▲2	▲2									
29年産米	0	4	15									
1年古米(28年産)	20	16	13									

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成28年産(29年9月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産地	28年産 (H29.9末)	27年産 (H28.9末)	前年 同月比	産地	28年産 (H29.9末)	27年産 (H28.9末)	前年 同月比
北海道	40.2	46.3	87%	滋賀	6.6	5.7	117%
青森	31.0	29.9	104%	京都	2.2	1.5	146%
岩手	23.8	27.3	87%	大阪	0.4	0.2	229%
宮城	38.5	36.6	105%	兵庫	6.9	7.8	89%
秋田	27.5	25.3	109%	奈良	0.8	0.7	105%
山形	45.8	40.6	113%	和歌山	0.4	0.3	110%
福島	39.1	24.9	157%	鳥取	2.8	2.5	113%
茨城	10.2	17.1	60%	島根	3.7	2.7	137%
栃木	32.6	44.2	74%	岡山	6.9	8.8	78%
群馬	3.7	5.4	69%	広島	3.5	3.7	97%
埼玉	9.6	8.6	112%	山口	5.8	7.0	82%
千葉	5.0	7.7	65%	徳島	0.9	0.9	99%
東京	0.0	0.0	-	香川	3.3	2.9	117%
神奈川	0.3	0.1	477%	愛媛	2.0	2.7	72%
新潟	39.2	27.9	141%	高知	1.9	1.4	134%
富山	13.2	10.4	127%	福岡	10.4	9.2	113%
石川	7.3	9.3	79%	佐賀	4.2	7.1	59%
福井	7.4	7.3	102%	長崎	1.3	2.1	61%
山梨	0.5	0.6	71%	熊本	6.2	7.8	79%
長野	11.9	7.9	150%	大分	2.6	2.8	95%
岐阜	6.1	6.5	94%	宮崎	1.3	1.2	117%
静岡	0.9	0.7	140%	鹿児島	3.8	5.0	75%
愛知	5.3	6.2	85%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	3.0	3.5	85%	全国計	480	479	100%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

(3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）

（単位：千玄米トン）

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷+販売段階	96.9	66.1	95.1									
	29年産米			54.1									
	1年古米(28年産)	95.3	64.9	40.2									
	出荷段階	70.6	45.9	72.6									
	29年産米			45.9									
	1年古米(28年産)	70.3	45.7	26.7									
	販売段階	26.3	20.2	22.5									
	29年産米			8.2									
	1年古米(28年産)	25.0	19.2	13.6									
青森	出荷+販売段階	58.3	44.5	44.9									
	29年産米			13.1									
	1年古米(28年産)	57.0	43.5	31.0									
	出荷段階	45.1	32.6	33.9									
	29年産米			12.8									
	1年古米(28年産)	45.0	32.6	21.0									
	販売段階	13.2	11.9	11.0									
	29年産米			0.2									
	1年古米(28年産)	12.0	10.9	9.9									
岩手	出荷+販売段階	51.3	36.8	25.6									
	29年産米			1.2									
	1年古米(28年産)	50.2	36.0	23.8									
	出荷段階	44.5	30.6	20.2									
	29年産米			0.9									
	1年古米(28年産)	44.3	30.5	19.1									
	販売段階	6.7	6.2	5.4									
	29年産米			0.2									
	1年古米(28年産)	6.0	5.5	4.7									
宮城	出荷+販売段階	80.2	58.9	54.5									
	29年産米			15.2									
	1年古米(28年産)	78.8	57.7	38.5									
	出荷段階	69.4	49.3	46.0									
	29年産米			14.4									
	1年古米(28年産)	69.1	49.0	31.4									
	販売段階	10.7	9.6	8.6									
	29年産米			0.8									
	1年古米(28年産)	9.7	8.7	7.0									
秋田	出荷+販売段階	78.6	51.0	64.3									
	29年産米			34.4									
	1年古米(28年産)	74.3	47.8	27.5									
	出荷段階	62.3	38.9	52.6									
	29年産米			31.6									
	1年古米(28年産)	60.1	37.3	19.7									
	販売段階	16.3	12.1	11.7									
	29年産米			2.8									
	1年古米(28年産)	14.3	10.6	7.8									

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単-農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、29年産米と1年古米（28年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4	63.1	59.8									
	29年産米			11.9									
	1年古米(28年産)	79.1	60.6	45.8									
	出荷段階	71.4	52.1	49.3									
	29年産米			11.6									
	1年古米(28年産)	70.4	51.4	37.0									
	販売段階	10.9	11.0	10.5									
	29年産米			0.3									
	1年古米(28年産)	8.7	9.2	8.8									
福島	出荷+販売段階	82.4	57.3	47.3									
	29年産米			7.3									
	1年古米(28年産)	80.7	56.0	39.1									
	出荷段階	65.2	43.1	35.8									
	29年産米			6.7									
	1年古米(28年産)	64.7	42.7	28.9									
	販売段階	17.2	14.2	11.5									
	29年産米			0.6									
	1年古米(28年産)	16.0	13.3	10.2									
茨城	出荷+販売段階	29.0	36.7	115.8									
	29年産米		20.8	105.2									
	1年古米(28年産)	28.7	15.6	10.2									
	出荷段階	16.2	20.2	76.5									
	29年産米		13.4	73.8									
	1年古米(28年産)	16.1	6.8	2.6									
	販売段階	12.9	16.5	39.3									
	29年産米		7.4	31.4									
	1年古米(28年産)	12.6	8.8	7.7									
栃木	出荷+販売段階	66.1	48.0	104.6									
	29年産米			69.9									
	1年古米(28年産)	61.8	45.0	32.6									
	出荷段階	49.7	34.9	88.1									
	29年産米			63.7									
	1年古米(28年産)	48.2	34.0	23.8									
	販売段階	16.4	13.1	16.5									
	29年産米			6.2									
	1年古米(28年産)	13.5	11.0	8.8									
群馬	出荷+販売段階	8.7	5.9	4.3									
	29年産米			0.6									
	1年古米(28年産)	8.3	5.7	3.7									
	出荷段階	6.5	3.9	2.7									
	29年産米			0.5									
	1年古米(28年産)	6.5	3.9	2.2									
	販売段階	2.2	2.0	1.6									
	29年産米			0.1									
	1年古米(28年産)	1.8	1.8	1.5									
埼玉	出荷+販売段階	12.9	10.6	18.3									
	29年産米		1.1	8.6									
	1年古米(28年産)	12.8	9.5	9.6									
	出荷段階	8.5	6.5	11.1									
	29年産米		0.7	7.1									
	1年古米(28年産)	8.4	5.8	4.0									
	販売段階	4.5	4.1	7.3									
	29年産米		0.4	1.6									
	1年古米(28年産)	4.4	3.6	5.7									

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5	60.3	116.6									
	29年産米		52.5	111.6									
	1年古米(28年産)	16.4	7.7	5.0									
	出荷段階	10.6	48.9	94.7									
	29年産米		46.5	93.7									
	1年古米(28年産)	10.6	2.4	1.1									
	販売段階	5.9	11.4	21.9									
	29年産米		6.0	17.9									
	1年古米(28年産)	5.8	5.3	3.9									
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.4	0.6									
	29年産米			0.3									
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3									
	出荷段階	0.5	0.4	0.6									
	29年産米			0.3									
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3									
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7	1.0	1.6									
	29年産米			1.1									
	1年古米(28年産)	1.7	1.0	0.5									
	出荷段階	1.4	0.8	1.4									
	29年産米			1.1									
	1年古米(28年産)	1.3	0.8	0.3									
	販売段階	0.4	0.3	0.2									
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.3	0.2	0.2									
長野	出荷+販売段階	24.8	17.8	28.7									
	29年産米			16.8									
	1年古米(28年産)	24.7	17.8	11.9									
	出荷段階	21.6	15.0	26.0									
	29年産米			16.2									
	1年古米(28年産)	21.6	15.0	9.8									
	販売段階	3.3	2.9	2.7									
	29年産米			0.7									
	1年古米(28年産)	3.1	2.8	2.0									
静岡	出荷+販売段階	2.9	6.0	15.2									
	29年産米		4.3	14.2									
	1年古米(28年産)	2.8	1.6	0.9									
	出荷段階	2.1	3.9	9.9									
	29年産米		2.5	9.2									
	1年古米(28年産)	2.1	1.3	0.7									
	販売段階	0.8	2.1	5.4									
	29年産米		1.7	5.1									
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.2									

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9	60.8	200.2									
	29年産米		0.1	160.1									
	1年古米(28年産)	89.4	58.5	39.2									
	出荷段階	80.0	50.8	184.3									
	29年産米		0.1	150.1									
	1年古米(28年産)	77.6	49.5	33.6									
	販売段階	13.9	10.0	15.9									
	29年産米			10.0									
	1年古米(28年産)	11.8	9.0	5.5									
富山	出荷+販売段階	31.5	20.2	74.6									
	29年産米		0.6	61.4									
	1年古米(28年産)	31.3	19.5	13.2									
	出荷段階	25.2	15.1	67.8									
	29年産米		0.3	57.7									
	1年古米(28年産)	25.2	14.8	10.1									
	販売段階	6.3	5.0	6.8									
	29年産米		0.3	3.7									
	1年古米(28年産)	6.1	4.6	3.1									
石川	出荷+販売段階	17.7	12.1	54.2									
	29年産米		1.2	46.8									
	1年古米(28年産)	17.5	10.8	7.3									
	出荷段階	14.2	8.9	34.5									
	29年産米		0.4	28.6									
	1年古米(28年産)	14.1	8.5	5.8									
	販売段階	3.5	3.1	19.7									
	29年産米		0.8	18.2									
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.5									
福井	出荷+販売段階	15.8	15.8	50.2									
	29年産米		4.9	42.8									
	1年古米(28年産)	15.8	10.9	7.4									
	出荷段階	12.7	11.1	41.7									
	29年産米		2.4	35.9									
	1年古米(28年産)	12.7	8.7	5.8									
	販売段階	3.1	4.7	8.5									
	29年産米		2.5	6.8									
	1年古米(28年産)	3.1	2.2	1.6									
岐阜	出荷+販売段階	12.0	10.5	10.8									
	29年産米		1.6	4.0									
	1年古米(28年産)	10.9	8.1	6.1									
	出荷段階	9.0	7.8	7.9									
	29年産米		1.3	3.3									
	1年古米(28年産)	8.9	6.5	4.5									
	販売段階	3.0	2.7	3.0									
	29年産米		0.3	0.7									
	1年古米(28年産)	2.0	1.6	1.6									
愛知	出荷+販売段階	12.8	11.9	14.3									
	29年産米		2.3	8.9									
	1年古米(28年産)	12.4	9.4	5.3									
	出荷段階	10.8	9.6	11.3									
	29年産米		1.6	7.3									
	1年古米(28年産)	10.8	8.0	4.1									
	販売段階	2.0	2.2	2.9									
	29年産米		0.7	1.7									
	1年古米(28年産)	1.6	1.4	1.2									

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	7.5	16.9	40.4									
	29年産米		12.7	37.4									
	1年古米(28年産)	7.0	4.0	3.0									
	出荷段階	5.5	13.4	35.7									
	29年産米		10.4	33.6									
	1年古米(28年産)	5.2	2.7	2.0									
	販売段階	2.0	3.6	4.7									
	29年産米		2.2	3.8									
	1年古米(28年産)	1.8	1.2	0.9									
滋賀	出荷+販売段階	15.1	13.3	52.3									
	29年産米		3.7	45.5									
	1年古米(28年産)	14.7	9.3	6.6									
	出荷段階	12.3	10.0	46.3									
	29年産米		3.3	42.6									
	1年古米(28年産)	11.9	6.5	3.5									
	販売段階	2.9	3.2	6.0									
	29年産米		0.4	2.9									
	1年古米(28年産)	2.8	2.8	3.1									
京都	出荷+販売段階	5.3	3.6	10.2									
	29年産米		0.1	8.0									
	1年古米(28年産)	5.2	3.6	2.2									
	出荷段階	4.0	2.8	8.8									
	29年産米		0.1	7.3									
	1年古米(28年産)	4.0	2.7	1.5									
	販売段階	1.3	0.9	1.4									
	29年産米			0.7									
	1年古米(28年産)	1.3	0.9	0.7									
大阪	出荷+販売段階	0.9	0.6	0.8									
	29年産米			0.4									
	1年古米(28年産)	0.9	0.6	0.4									
	出荷段階	0.7	0.5	0.6									
	29年産米			0.4									
	1年古米(28年産)	0.7	0.5	0.2									
	販売段階	0.2	0.1	0.2									
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.2									
兵庫	出荷+販売段階	15.7	11.0	25.8									
	29年産米			18.7									
	1年古米(28年産)	15.4	10.6	6.9									
	出荷段階	13.2	8.9	23.3									
	29年産米			17.6									
	1年古米(28年産)	13.2	8.9	5.7									
	販売段階	2.5	2.0	2.6									
	29年産米			1.1									
	1年古米(28年産)	2.1	1.7	1.2									
奈良	出荷+販売段階	2.2	1.5	1.6									
	29年産米			0.7									
	1年古米(28年産)	2.1	1.4	0.8									
	出荷段階	0.5	0.3	0.8									
	29年産米			0.7									
	1年古米(28年産)	0.5	0.3	0.1									
	販売段階	1.7	1.2	0.8									
	29年産米			0.1									
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.7									

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.5	0.9									
	29年産米			0.5									
	1年古米(28年産)	0.8	0.5	0.4									
	出荷段階	0.6	0.4	0.5									
	29年産米			0.5									
	1年古米(28年産)	0.6	0.4										
	販売段階	0.3	0.1	0.4									
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.4									
鳥取	出荷+販売段階	7.2	4.6	9.5									
	29年産米			6.6									
	1年古米(28年産)	7.2	4.5	2.8									
	出荷段階	5.2	3.0	7.8									
	29年産米			6.0									
	1年古米(28年産)	5.2	3.0	1.8									
	販売段階	2.0	1.6	1.7									
	29年産米			0.6									
	1年古米(28年産)	1.9	1.5	1.0									
島根	出荷+販売段階	8.3	6.3	30.0									
	29年産米		1.1	26.3									
	1年古米(28年産)	8.2	5.2	3.7									
	出荷段階	6.7	4.8	27.5									
	29年産米		0.9	25.0									
	1年古米(28年産)	6.7	3.8	2.5									
	販売段階	1.6	1.6	2.5									
	29年産米		0.1	1.3									
	1年古米(28年産)	1.5	1.4	1.2									
岡山	出荷+販売段階	14.9	10.2	15.8									
	29年産米			8.9									
	1年古米(28年産)	14.8	10.1	6.9									
	出荷段階	11.4	7.5	11.3									
	29年産米			7.4									
	1年古米(28年産)	11.4	7.4	3.9									
	販売段階	3.5	2.7	4.5									
	29年産米			1.5									
	1年古米(28年産)	3.4	2.6	3.0									
広島	出荷+販売段階	10.4	6.9	23.2									
	29年産米		0.3	19.5									
	1年古米(28年産)	10.3	6.4	3.5									
	出荷段階	7.5	4.8	19.6									
	29年産米		0.2	17.8									
	1年古米(28年産)	7.5	4.6	1.8									
	販売段階	3.0	2.1	3.7									
	29年産米			1.8									
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.7									
山口	出荷+販売段階	11.5	8.8	20.0									
	29年産米		0.5	14.1									
	1年古米(28年産)	11.1	8.0	5.8									
	出荷段階	10.0	7.4	18.6									
	29年産米		0.4	13.6									
	1年古米(28年産)	10.0	7.0	4.9									
	販売段階	1.5	1.4	1.5									
	29年産米		0.1	0.4									
	1年古米(28年産)	1.1	1.0	0.8									

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3	10.8	14.2									
	29年産米		9.4	13.1									
	1年古米(28年産)	2.1	1.2	0.9									
	出荷段階	0.7	7.9	10.6									
	29年産米		7.6	10.3									
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.3									
	販売段階	1.6	2.9	3.6									
	29年産米		1.8	2.8									
	1年古米(28年産)	1.4	0.9	0.6									
香川	出荷+販売段階	7.5	6.0	6.6									
	29年産米		0.7	3.2									
	1年古米(28年産)	7.3	5.2	3.3									
	出荷段階	6.4	5.1	5.4									
	29年産米		0.6	3.1									
	1年古米(28年産)	6.4	4.5	2.3									
	販売段階	1.1	0.9	1.2									
	29年産米		0.1	0.2									
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	1.0									
愛媛	出荷+販売段階	4.2	5.3	7.9									
	29年産米		2.4	5.8									
	1年古米(28年産)	3.9	2.8	2.0									
	出荷段階	3.8	5.0	7.5									
	29年産米		2.3	5.6									
	1年古米(28年産)	3.5	2.5	1.7									
	販売段階	0.4	0.4	0.5									
	29年産米		0.1	0.2									
	1年古米(28年産)	0.4	0.3	0.2									
高知	出荷+販売段階	3.7	11.7	10.7									
	29年産米	0.4	9.2	8.7									
	1年古米(28年産)	3.1	2.4	1.9									
	出荷段階	1.1	6.6	5.9									
	29年産米	0.1	5.8	5.2									
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	0.6									
	販売段階	2.6	5.1	4.9									
	29年産米	0.3	3.3	3.5									
	1年古米(28年産)	2.2	1.6	1.3									
福岡	出荷+販売段階	22.5	16.7	25.6									
	29年産米		0.7	15.0									
	1年古米(28年産)	22.1	15.7	10.4									
	出荷段階	18.9	12.9	17.8									
	29年産米		0.4	9.6									
	1年古米(28年産)	18.8	12.4	8.2									
	販売段階	3.6	3.8	7.8									
	29年産米		0.3	5.4									
	1年古米(28年産)	3.3	3.3	2.3									
佐賀	出荷+販売段階	10.4	8.2	9.5									
	29年産米		1.2	5.2									
	1年古米(28年産)	10.2	6.9	4.2									
	出荷段階	9.1	7.0	8.5									
	29年産米		1.1	5.0									
	1年古米(28年産)	9.1	6.0	3.5									
	販売段階	1.3	1.2	1.1									
	29年産米		0.1	0.2									
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7									

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2	3.0	2.9									
	29年産米		0.8	1.6									
	1年古米(28年産)	3.2	2.2	1.3									
	出荷段階	2.8	2.7	2.5									
	29年産米		0.8	1.4									
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.1									
	販売段階	0.3	0.3	0.4									
	29年産米			0.2									
	1年古米(28年産)	0.3	0.3	0.2									
熊本	出荷+販売段階	15.3	12.7	11.7									
	29年産米		2.6	5.4									
	1年古米(28年産)	15.1	9.8	6.2									
	出荷段階	11.5	8.6	7.3									
	29年産米		1.7	3.4									
	1年古米(28年産)	11.5	6.9	3.9									
	販売段階	3.9	4.0	4.4									
	29年産米		0.9	2.0									
	1年古米(28年産)	3.6	2.9	2.2									
大分	出荷+販売段階	6.5	5.0	4.4									
	29年産米		0.5	1.7									
	1年古米(28年産)	6.3	4.4	2.6									
	出荷段階	4.8	3.6	2.7									
	29年産米		0.3	0.9									
	1年古米(28年産)	4.8	3.3	1.8									
	販売段階	1.7	1.4	1.6									
	29年産米		0.2	0.8									
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.8									
宮崎	出荷+販売段階	8.7	8.0	4.1									
	29年産米	5.2	5.6	2.7									
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.3									
	出荷段階	6.8	4.3	1.0									
	29年産米	4.5	2.9	0.3									
	1年古米(28年産)	2.3	1.5	0.6									
	販売段階	1.9	3.7	3.1									
	29年産米	0.8	2.8	2.4									
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7									
鹿児島	出荷+販売段階	7.7	9.9	7.7									
	29年産米	0.5	4.3	3.7									
	1年古米(28年産)	6.8	5.3	3.8									
	出荷段階	5.4	5.3	3.6									
	29年産米	0.1	1.0	0.5									
	1年古米(28年産)	5.0	4.1	3.0									
	販売段階	2.2	4.6	4.1									
	29年産米	0.4	3.3	3.2									
	1年古米(28年産)	1.7	1.2	0.8									
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.3	0.3									
	29年産米	0.6	0.3	0.3									
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3	0.2	0.2									
	29年産米	0.3	0.2	0.2									
	1年古米(28年産)												
	販売段階	0.3	0.1	0.1									
	29年産米	0.3	0.1	0.1									
	1年古米(28年産)												

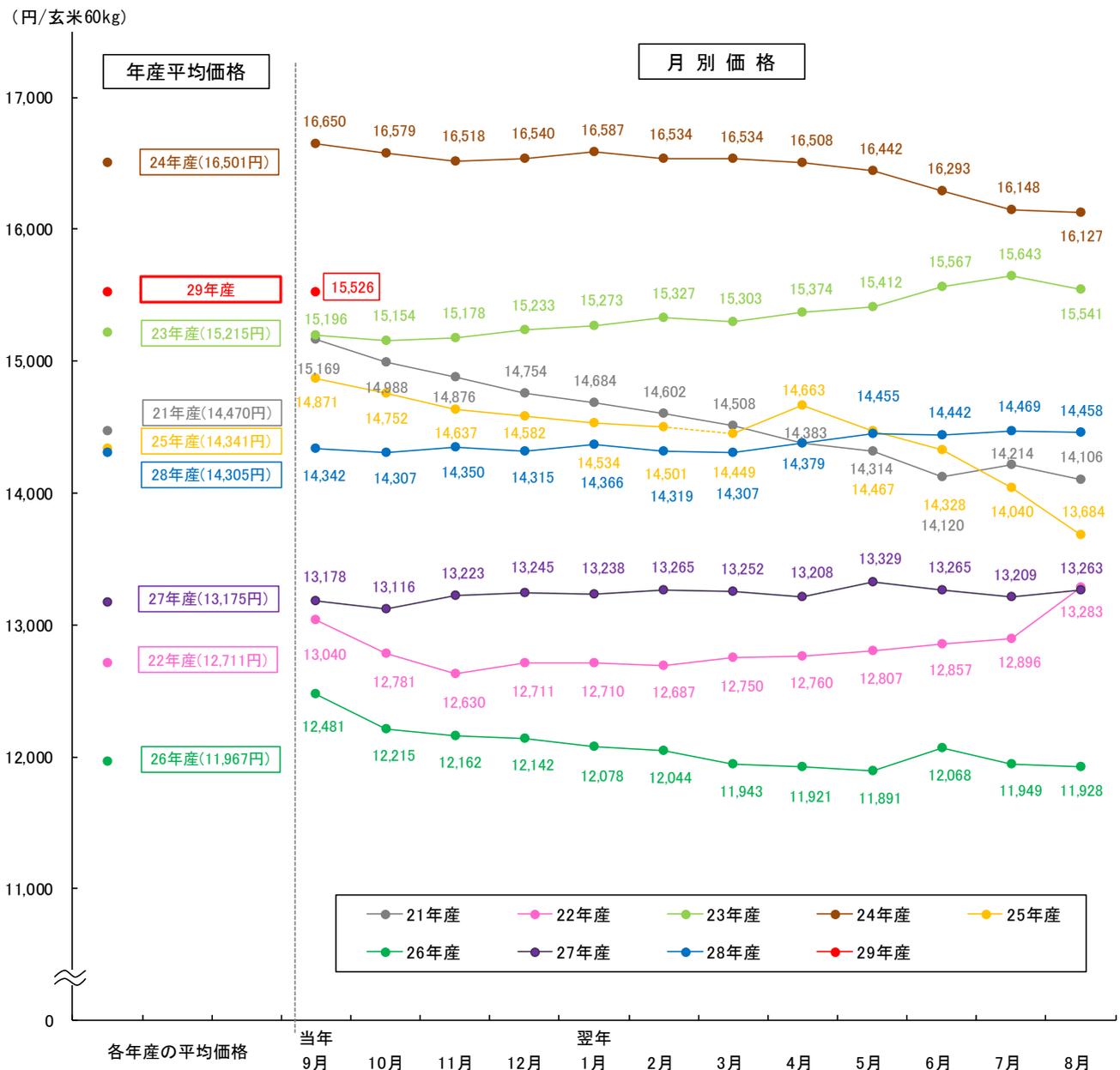
Ⅲ 米の価格情報

1 相対取引価格・数量

(1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成29年9月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,184円/60kg。
- ※ 産地銘柄ごとの価格は、23頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（5%。ただし、25年産の26年4月分以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は平成29年8月）までの通年平均価格。（28年産及び29年産は速報値ベース）

(2) 価格帯別分析結果（平成29年9月）

- 平成28年産米と平成29年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成28年産の価格が16,000円以上の銘柄は+641円、13,000円未満の銘柄では+1,721円。
- 産地銘柄ごとでは、「茨城県産あきたこまち」が最も上昇しており、次いで、「千葉県産ふさこがね」、「千葉県産ふさおとめ」という状況。

価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成28年産の相対取引価格			
	16,000円以上の銘柄の平均	15,000円～14,000円の銘柄の平均	14,000円～13,000円の銘柄の平均	13,000円未満の銘柄の平均
平成28年産(出回り～29年8月) ①	16,959	14,337	13,646	12,874
平成29年産(29年9月) (28年産価格帯ベース) ②	17,600	15,526	14,902	14,595
価格差 ②-①	+ 641	+ 1,189	+ 1,256	+ 1,721

平成28年産と平成29年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

		平成28年産 (出回り～平成29年8月) ①	平成29年産 (平成29年9月) ②	価格差 ②-①
茨城	あきたこまち	13,247	15,383	+ 2,136
千葉	ふさこがね	12,835	14,689	+ 1,854
千葉	ふさおとめ	12,993	14,793	+ 1,800
奈良	コシヒカリ	13,155	14,889	+ 1,734
北海道	ななつぼし	14,236	15,874	+ 1,638
茨城	コシヒカリ	13,778	15,407	+ 1,629
岡山	あきたこまち	13,842	15,359	+ 1,517
愛媛	あきたこまち	12,530	13,997	+ 1,467
秋田	あきたこまち	14,174	15,579	+ 1,405
佐賀	夢しずく	13,333	14,686	+ 1,353

(3) 相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成29年9月分）

相対取引価格・数量①（北海道から千葉まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年9月) ①	数量 29年産米 (29年9月) ②	参 考							
				価格				数量			
				29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /	29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /
北海道	ななつぼし	15,874	4,421	-	-	14,200	112%	-	-	34,808	13%
北海道	ゆめぴりか	17,694	3,670	-	-	17,136	103%	-	-	13,205	28%
北海道	きらら397	-	-	-	-	14,253	-	-	-	3,902	-
青森	まっしぐら	14,249	466	-	-	12,988	110%	-	-	729	64%
青森	つがるロマン	-	-	-	-	13,311	-	-	-	869	-
岩手	ひとめぼれ	15,079	1,412	-	-	14,071	107%	-	-	3,236	44%
岩手	あきたこまち	-	-	-	-	13,558	-	-	-	326	-
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	ひとめぼれ	15,105	5,001	-	-	13,849	109%	-	-	10,824	46%
宮城	つや姫	-	-	-	-	14,300	-	-	-	664	-
宮城	ササニシキ	15,117	846	-	-	13,886	109%	-	-	1,690	50%
秋田	あきたこまち	15,579	8,675	-	-	14,151	110%	-	-	8,336	104%
秋田	めんこいな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形	はえぬき	15,100	551	-	-	13,842	109%	-	-	5,550	10%
山形	つや姫	-	-	-	-	18,121	-	-	-	950	-
山形	ひとめぼれ	14,941	117	-	-	14,128	106%	-	-	877	13%
福島	コシヒカリ(中通り)	-	-	-	-	13,423	-	-	-	126	-
福島	コシヒカリ(会津)	-	-	-	-	14,938	-	-	-	308	-
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	-	-	13,105	-	-	-	108	-
福島	ひとめぼれ	14,567	180	-	-	13,276	110%	-	-	637	28%
福島	天のつぶ	-	-	-	-	12,889	-	-	-	108	-
茨城	コシヒカリ	15,407	2,925	-	-	13,302	116%	-	-	26,848	11%
茨城	あきたこまち	15,383	4,549	-	-	13,033	118%	-	-	5,567	82%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	コシヒカリ	15,057	4,419	-	-	13,653	110%	-	-	5,461	81%
栃木	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	なすひかり	14,541	593	-	-	13,556	107%	-	-	278	213%
群馬	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬	ゆめまつり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	彩のかがやき	-	-	-	-	12,797	-	-	-	109	-
埼玉	コシヒカリ	14,343	150	-	-	13,651	105%	-	-	749	20%
埼玉	彩のきずな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉	コシヒカリ	14,972	7,926	-	-	13,593	110%	-	-	8,055	98%
千葉	ふさこがね	14,689	1,699	-	-	12,756	115%	-	-	3,303	51%
千葉	ふさおとめ	14,793	2,948	-	-	13,015	114%	-	-	2,388	123%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。

3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の取引状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。

8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（山梨から鳥取まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年9月) ①	数量 29年産米 (29年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /	29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /
山梨	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	コシヒカリ	15,734	4,218	-	-	14,572	108%	-	-	3,661	115%
長野	あきたこまち	14,645	917	-	-	13,600	108%	-	-	929	99%
静岡	コシヒカリ	15,268	343	-	-	14,755	103%	-	-	385	89%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	16,906	26,315	-	-	16,599	102%	-	-	13,994	188%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,600	6,213	-	-	20,803	99%	-	-	2,774	224%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,289	5,843	-	-	17,038	101%	-	-	2,891	202%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,311	3,789	-	-	17,012	102%	-	-	2,168	175%
新潟	こしいぶき	14,848	6,491	-	-	13,615	109%	-	-	4,916	132%
富山	コシヒカリ	15,951	19,256	-	-	15,428	103%	-	-	11,072	174%
富山	てんたかく	14,480	1,762	-	-	14,048	103%	-	-	1,034	170%
石川	コシヒカリ	15,676	580	-	-	14,731	106%	-	-	5,340	11%
石川	ゆめみづほ	-	-	-	-	13,186	-	-	-	3,033	-
福井	コシヒカリ	15,738	3,099	-	-	15,091	104%	-	-	2,163	143%
福井	ハナエチゼン	14,590	2,120	-	-	13,544	108%	-	-	1,729	123%
岐阜	ハツシモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜	コシヒカリ	15,076	500	-	-	14,686	103%	-	-	536	93%
岐阜	あきたこまち	14,208	268	-	-	13,239	107%	-	-	445	60%
愛知	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	13,522	-	-	-	114	-
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重	コシヒカリ(一般)	14,906	9,386	-	-	14,207	105%	-	-	931	1008%
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,315	3,354	-	-	14,647	105%	-	-	387	867%
三重	キヌヒカリ	14,125	1,079	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀	コシヒカリ	15,092	3,724	-	-	14,166	107%	-	-	7,174	52%
滋賀	キヌヒカリ	14,345	2,199	-	-	13,108	109%	-	-	1,766	125%
滋賀	日本晴	14,037	758	-	-	13,072	107%	-	-	697	109%
京都	コシヒカリ	15,968	1,489	-	-	16,030	100%	-	-	943	158%
京都	キヌヒカリ	14,691	320	-	-	13,404	110%	-	-	206	155%
兵庫	コシヒカリ	15,664	1,172	-	-	15,168	103%	-	-	1,300	90%
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	キヌヒカリ	13,936	135	-	-	12,887	108%	-	-	136	99%
奈良	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良	コシヒカリ	14,889	145	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	コシヒカリ	14,600	300	-	-	13,882	105%	-	-	246	122%
鳥取	きぬむすめ	14,288	292	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	ひとめぼれ	13,911	980	-	-	13,018	107%	-	-	590	166%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（島根から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年9月) ①	数量 29年産米 (29年9月) ②	参 考							
				価格				数量			
				29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /	29年産米 (29年8月)	対前月比 /	28年産米 (28年9月)	対前年比 /
島根	コシヒカリ	15,032	2,487	-	-	14,723	102%	-	-	3,087	81%
島根	きぬむすめ	14,275	3,293	-	-	13,304	107%	-	-	2,993	110%
島根	つや姫	14,965	1,346	-	-	13,816	108%	-	-	1,363	99%
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山	あきたこまち	15,359	270	-	-	13,814	111%	-	-	1,119	24%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	コシヒカリ	15,283	1,894	-	-	14,405	106%	-	-	1,513	125%
広島	あきろまん	14,283	180	-	-	13,249	108%	-	-	183	98%
広島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口	コシヒカリ	14,815	258	-	-	14,278	104%	-	-	887	29%
山口	ひとめぼれ	14,027	178	-	-	13,122	107%	-	-	517	34%
山口	ヒノヒカリ	-	-	-	-	13,179	-	-	-	672	-
徳島	コシヒカリ	15,336	180	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島	キヌヒカリ	14,256	240	-	-	13,608	105%	-	-	360	67%
香川	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	コシヒカリ	14,536	558	-	-	13,888	105%	-	-	540	103%
愛媛	コシヒカリ	14,570	362	-	-	13,688	106%	-	-	406	89%
愛媛	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	あきたこまち	13,997	124	-	-	13,081	107%	-	-	129	96%
高知	コシヒカリ	15,456	715	-	-	15,050	103%	-	-	668	107%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	夢つくし	16,427	1,165	-	-	16,019	103%	-	-	2,187	53%
福岡	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	元気つくし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	さがびより	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	夢しずく	14,686	306	-	-	13,621	108%	-	-	203	151%
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	コシヒカリ	16,040	161	-	-	15,160	106%	-	-	153	105%
熊本	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	コシヒカリ	15,285	255	-	-	14,942	102%	-	-	446	57%
大分	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	コシヒカリ	14,784	918	-	-	14,061	105%	-	-	1,211	76%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	あきほなみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	コシヒカリ	15,603	184	-	-	15,403	101%	-	-	110	167%
全銘柄平均価格、合計数量		15,526	173,038	-	-	14,342	108%	-	-	230,528	75%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

(4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

スポット価格 [日本コメ市場株式会社]

税抜価格

【平成29年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成29年 8月	平成29年 9月	平成29年 10月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)			
北海道きさら397	日本コメ市場 (随時)			
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)			
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)			
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)			
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)			
	日本コメ市場 (取引会)			
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)		15,193	15,526
	日本コメ市場 (取引会)		15,297	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)		14,600	14,577
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)			
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			14,661
	日本コメ市場 (取引会)			
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)		14,600	
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			
	日本コメ市場 (随時)			
	日本コメ市場 (取引会)			
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)			
千葉コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)	14,550	14,680	
千葉あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	14,387		
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)		14,225	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	14,003		
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)		15,613	15,483
	日本コメ市場 (取引会)		15,500	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)			

【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)									15,193				
北海道きさら397	日本コメ市場 (随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)							13,550					14,367	
	日本コメ市場 (取引会)												14,700	
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場 (取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場 (取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)													
	日本コメ市場 (随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場 (取引会)					13,145							14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場 (取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)												14,412	14,550

出典： 日本コメ市場株式会社HP

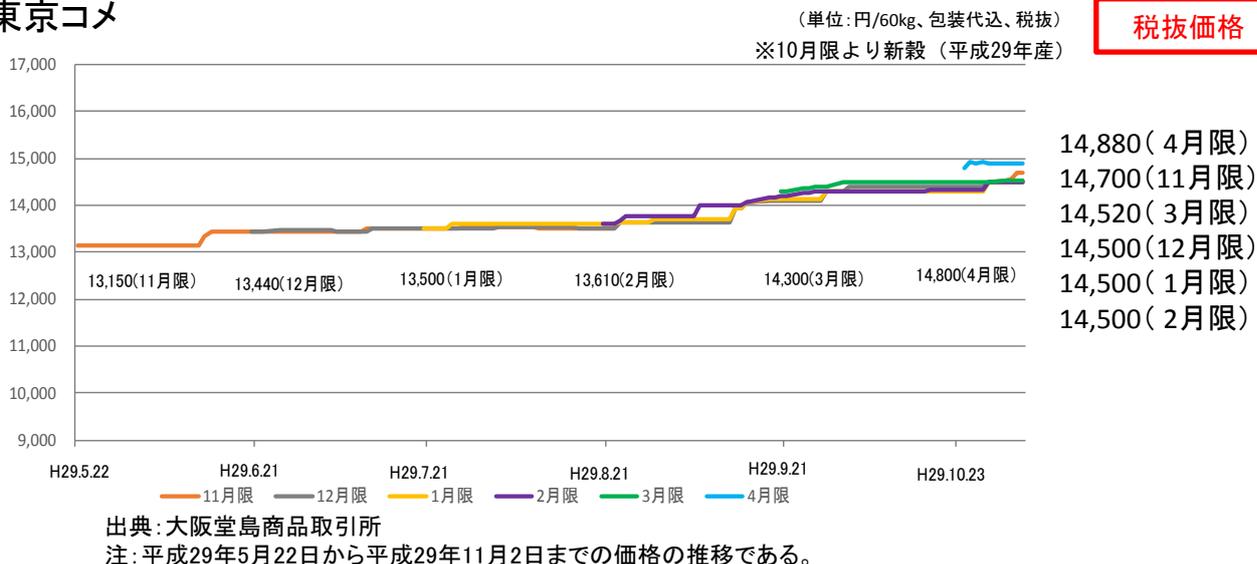
注：1 日本コメ市場 (随時) の価格は、随時取引 (取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引) の下期 (16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期) の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場 (取引会) の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格 (取引数量により加重平均) であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

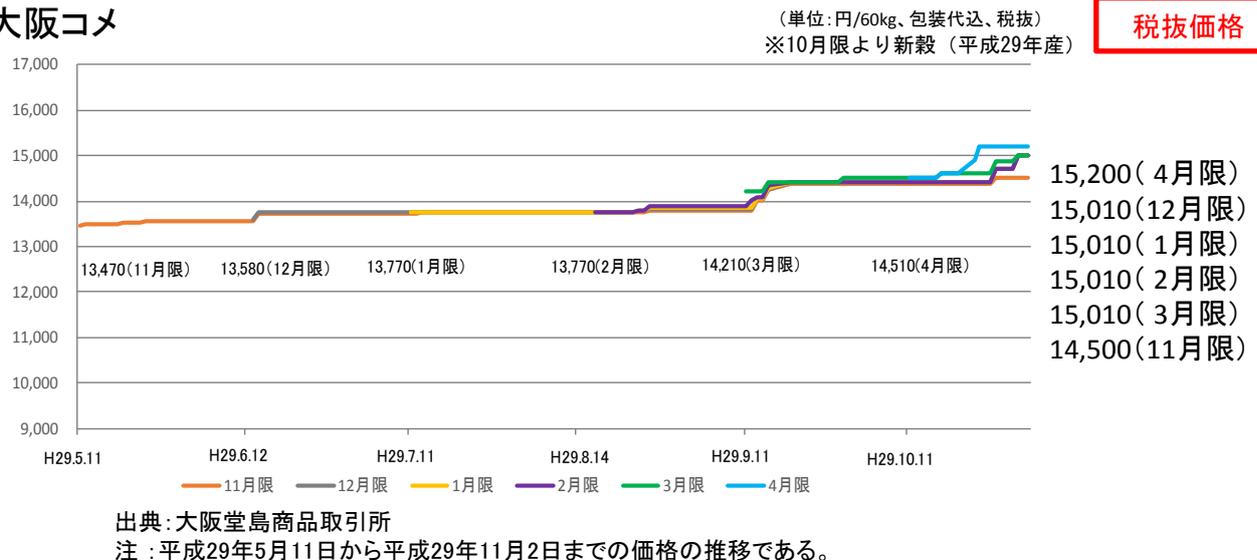
2 米の先物取引価格の推移

- 米の先物取引価格（11月2日）は、先月（10月2日）に比べ終値で、東京コメが+20円/60kg（3月限）～+400円/60kg（11月限）、大阪コメが+110円/60kg（11月限）～+610円/60kg（12、1、2月限）、新潟コシが+80円/60kg（2月限）～+290円/60kg（12月限）。

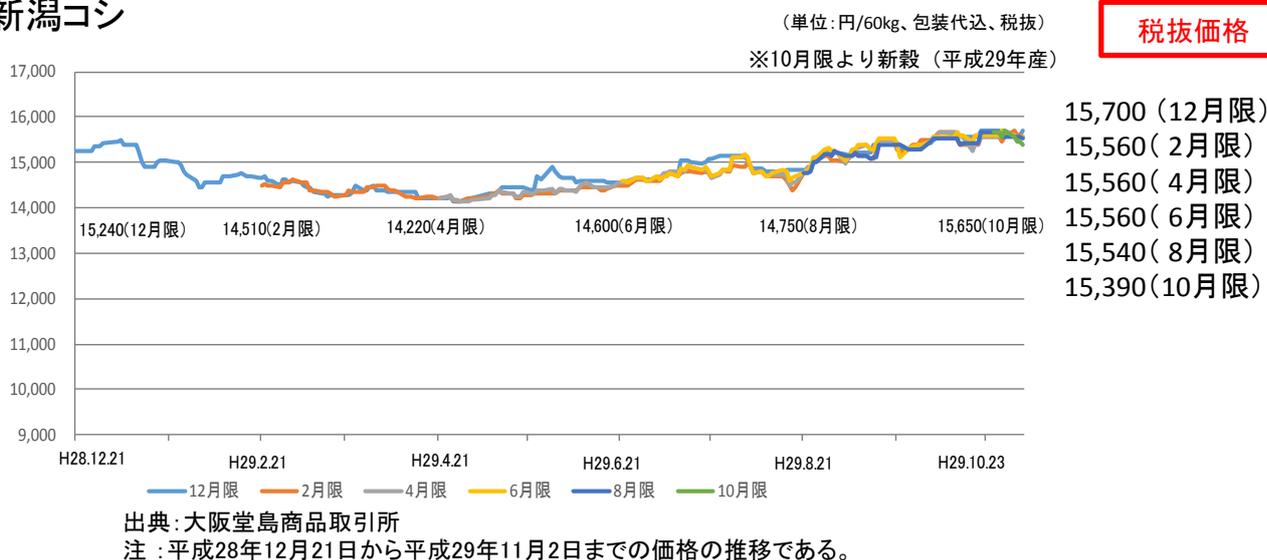
①東京コメ



②大阪コメ



③新潟コシ



3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年10月分)

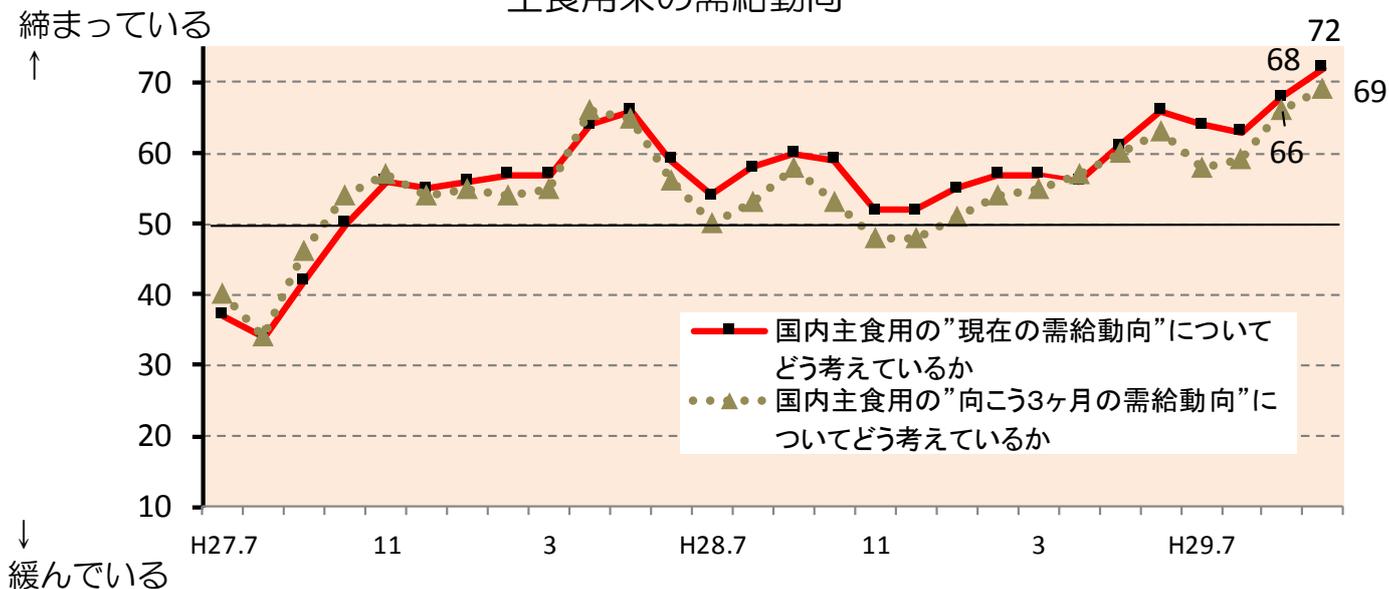
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成29年10月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は+4ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+3ポイント。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減	+	4 (今月の数値 72)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減	+	3 (今月の数値 69)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。
 【<http://www.komenet.jp/>】
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の165客体
- 有効回答数: 134客体
 - 生産者…………… 10
 - 集出荷業者/団体…………… 25
 - 卸売業者(主に主食用米)…………… 27
 - 小売業者/中食・外食業者…………… 53
 - その他…………… 19

※「その他」は以下の業者です。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は+8ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は▲3ポイント。

② 主食用米の米価水準

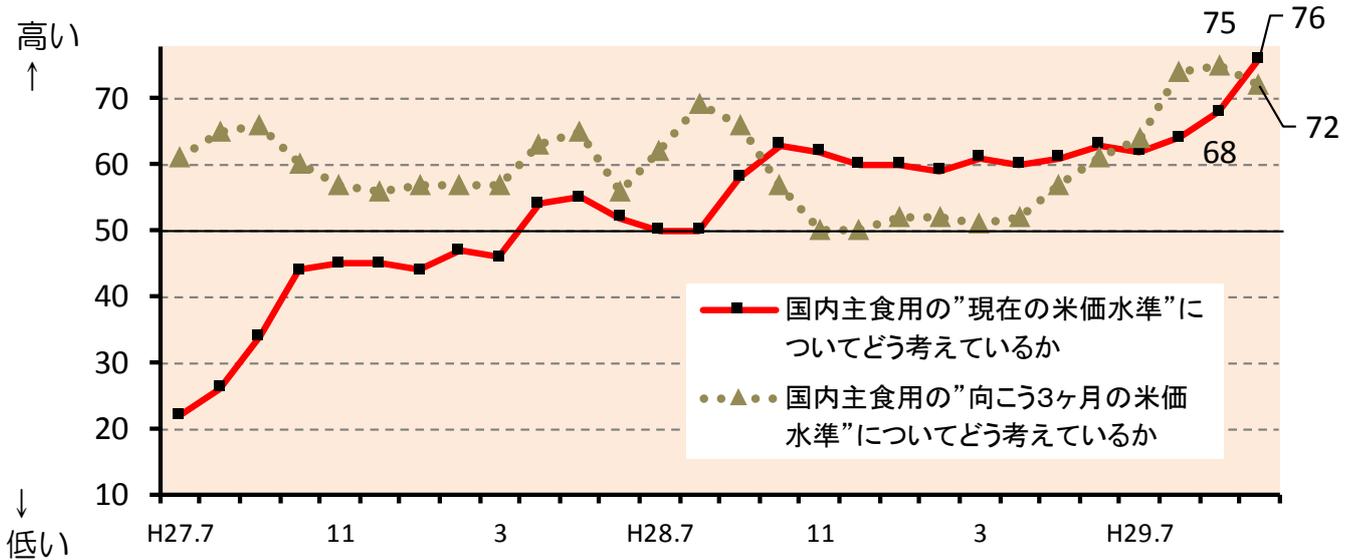
(ア) 現状判断D I

前月からの増減 +8 (今月の数値 76)

(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)

前月からの増減 ▲3 (今月の数値 72)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 29年産米の作付状況

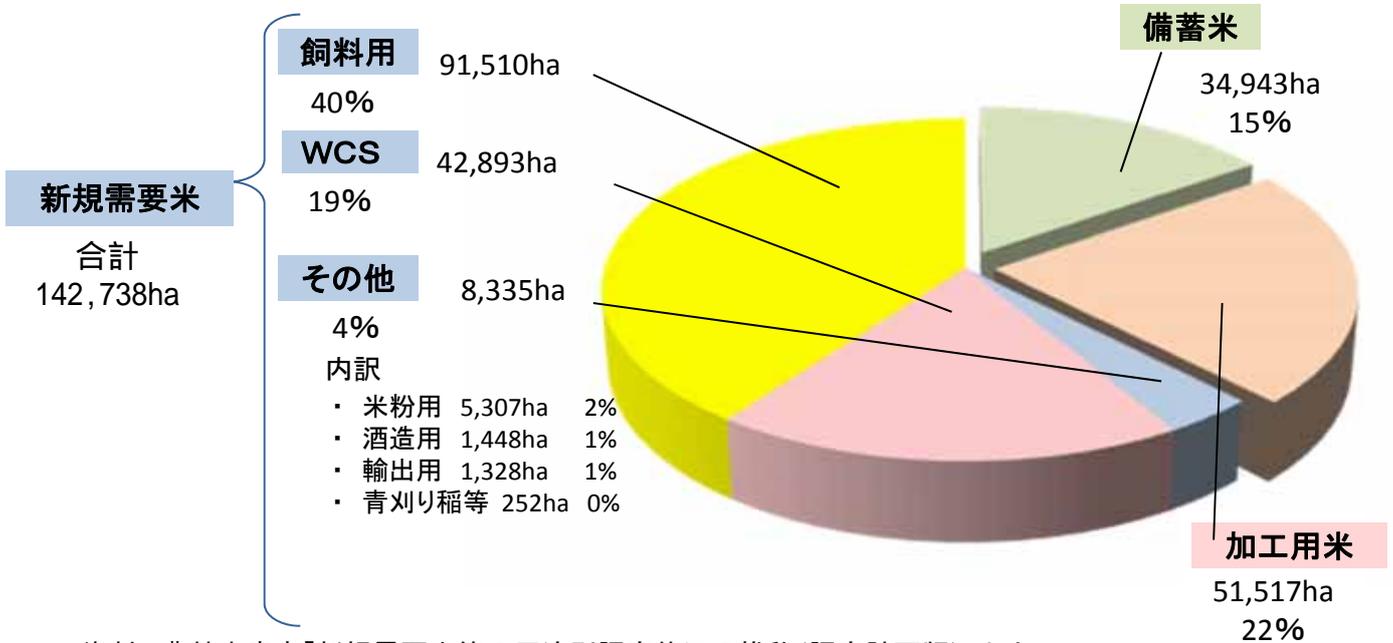
- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

(1) 29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、農林水産省「平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）」の予想収穫量である。
 ※新規需要米のうちWCS、青刈り等、子実を持たないものは、生産量に計上していない

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移（認定計画版）」より

なお、備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの29年度報告値。

注：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（29年産）							
	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稻	青刈り稻等	その他	
作付面積（ha）	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11	
計画生産量（t）	483,325	28,331	7,349	7,424			31	

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況（認定計画版）」。

注1：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成27米穀年度における使用量は対前年と同程度の約95万トン程度（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 加工用米の生産量及び特定米穀の流通量が増加し、国産原料米を調達しやすい環境にあったことから、味噌を中心に、外国産原料からの転換が進んだところ。

27米穀年度（平成26年11月～27年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

＜うるち米＞ (単位:万トン)

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (9)	10		3			25 (9)
米菓用	1	2		7	2	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		7	1		9
焼酎用 (泡盛含む)		1		5	2		8
米穀粉用		1	2	2	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	22	2	24	9	2	77

＜もち米＞ (単位:万トン)

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1		1	1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	7	4		1	1	6	19

- 注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。
 注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。
 注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。
 注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。
 注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。
 注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

- 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）
 焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用
 その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等
- 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）、
 加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告
 新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量
 MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）
 輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）
 特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
 - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
 - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
 - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	19~36	
東北	114~155	
関東	109~115	
中部	44~49	
関西	56~82	
九州	88~177	
合計	436~608	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
合計	76	18,288	16	4,645

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

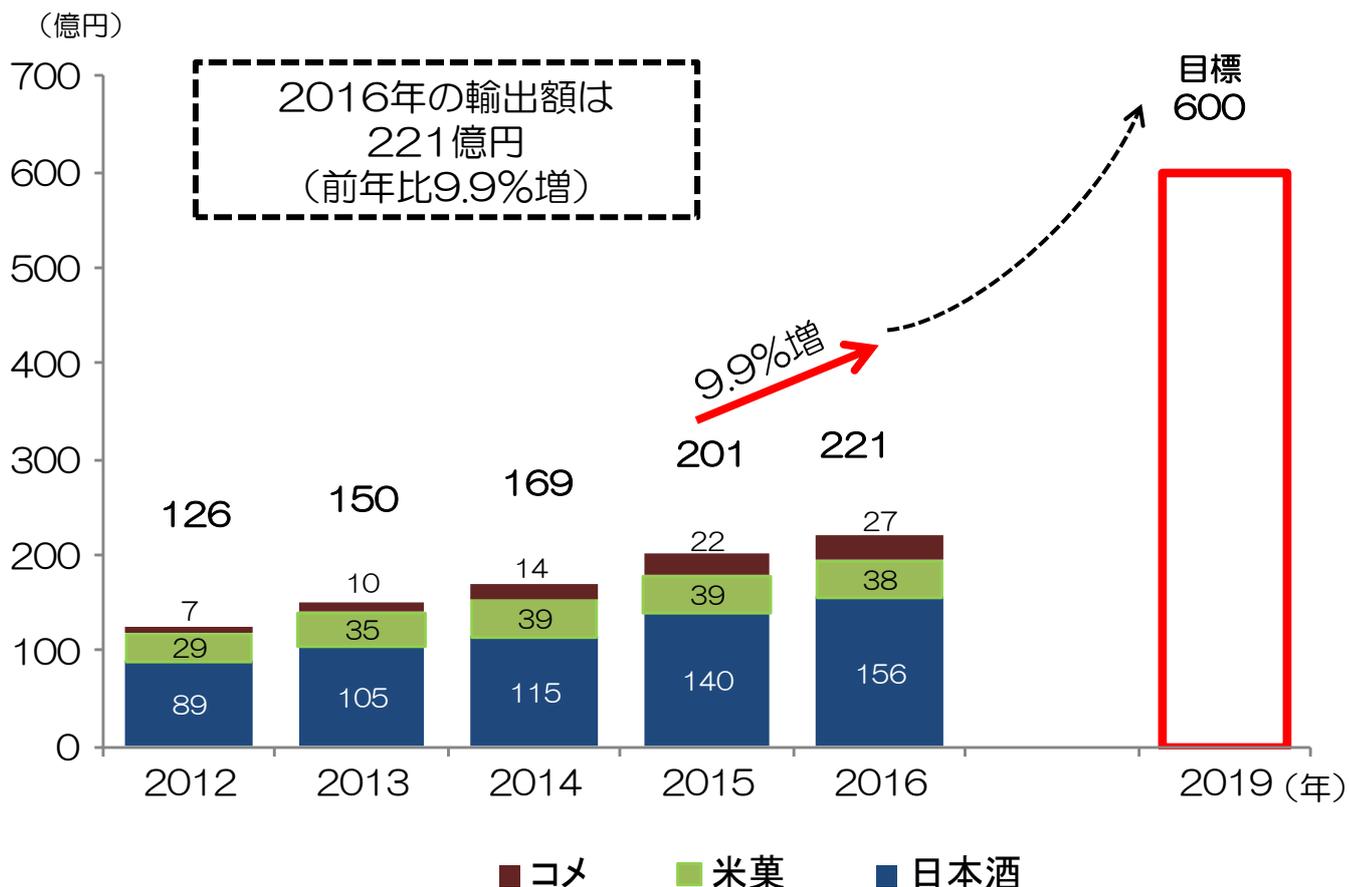
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成31年までに600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算要求額:3,304(3,150)億円】

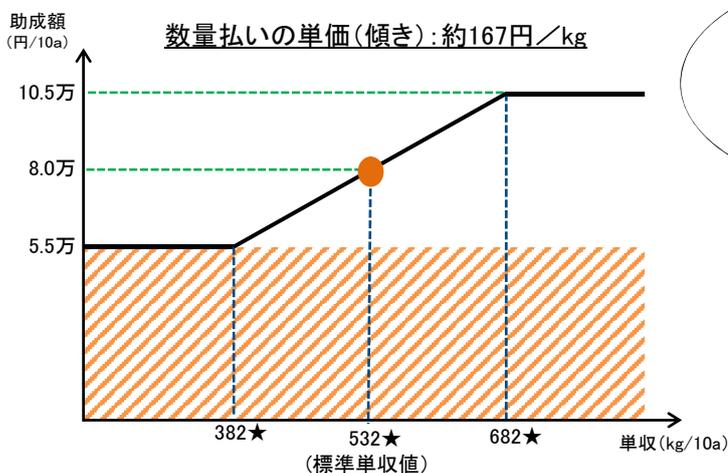
(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の単年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大(1.0万円/10a)
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓(2.0万円/10a)
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化(10.5万円/10a)
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
 - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
 - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
 - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算要求額： 1,984(1,950)億円】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A～Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

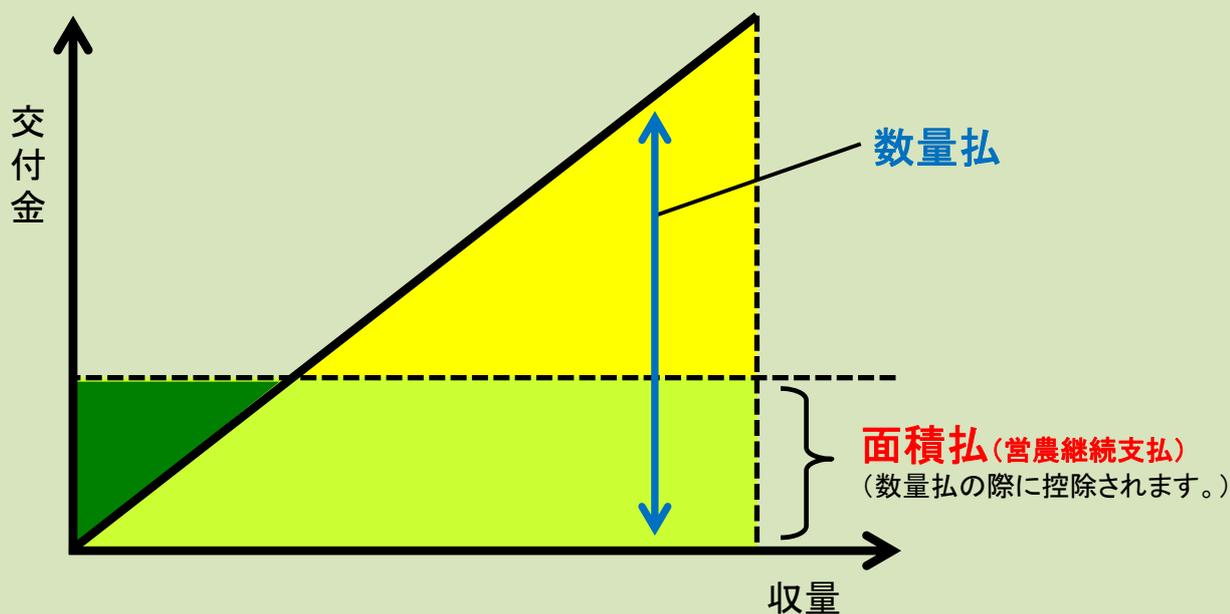
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10aあたり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算要求額:816(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
 ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

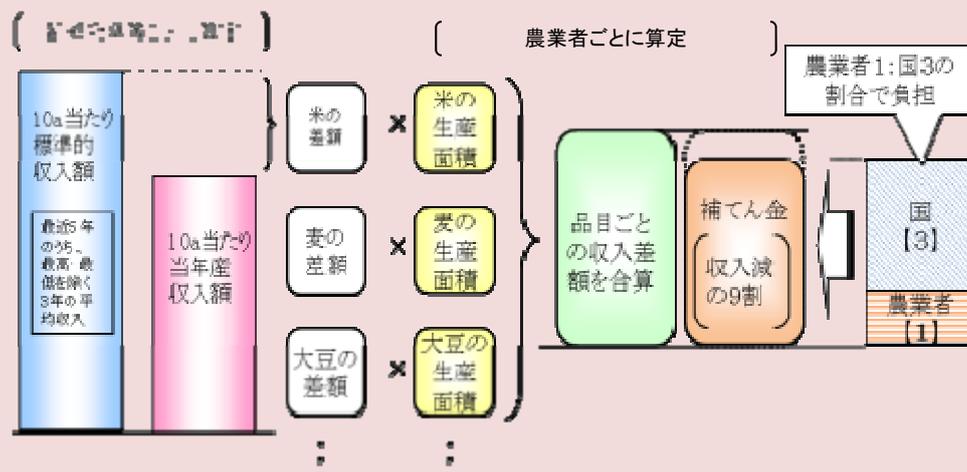
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
	福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
	静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県		753	698	0.20	62	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
沖 縄 県		887	337	0.10	0	0	
沖 縄 県		100	0	0.00	0	0	

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

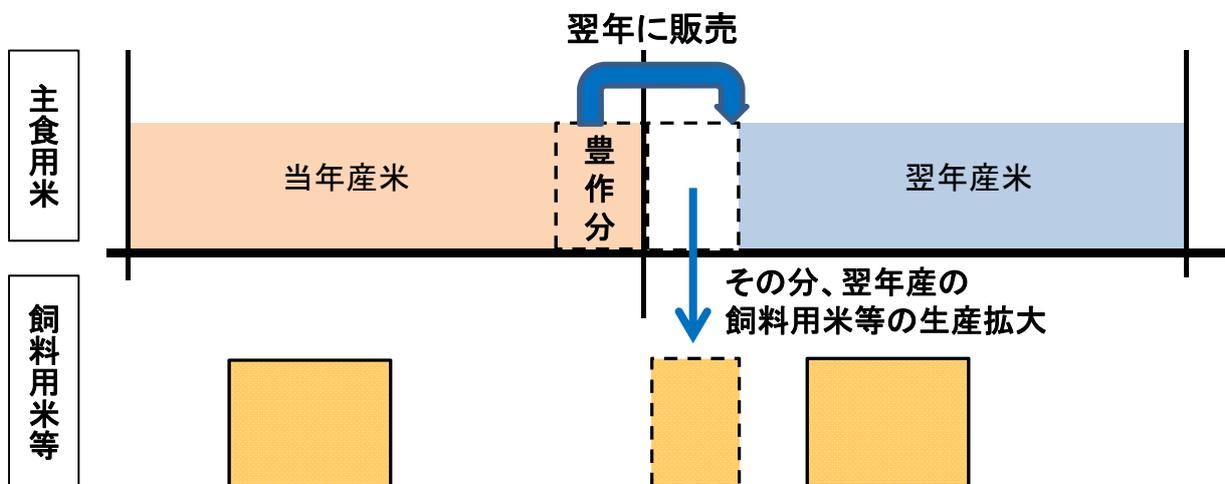
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算要求額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算要求額 3,304億円（対前年+154億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

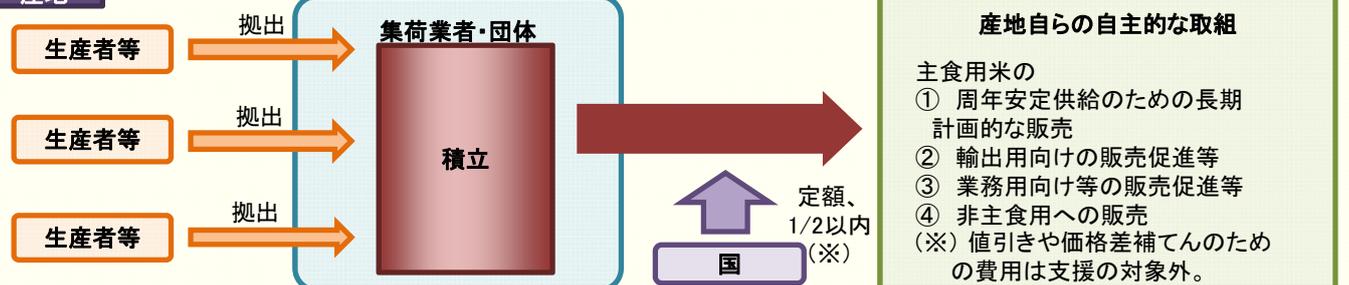
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



産地



また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

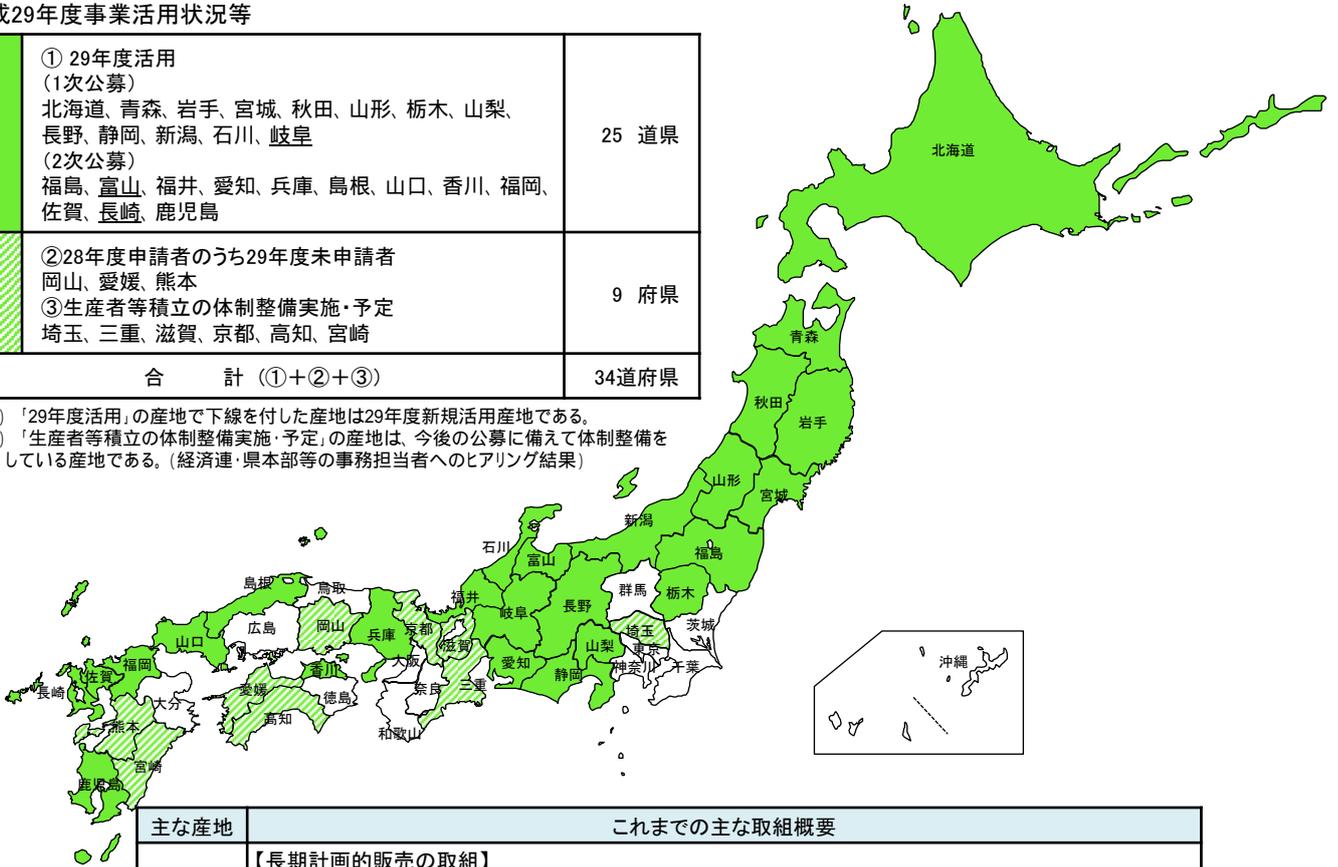
- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は25道県（27事業者）が活用している状況にあり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等

① 29年度活用 (1次公募) 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜 (2次公募) 福島、富山、福井、愛知、兵庫、島根、山口、香川、福岡、 佐賀、長崎、鹿児島	25 道県
②28年度申請者のうち29年度未申請者 岡山、愛媛、熊本 ③生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、三重、滋賀、京都、高知、宮崎	9 府県
合 計 (①+②+③)	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。

注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
栃木	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元出身書道家(涼 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR ・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年9月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲3.1%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で▲0.7%、中・外食は同▲8.4%。

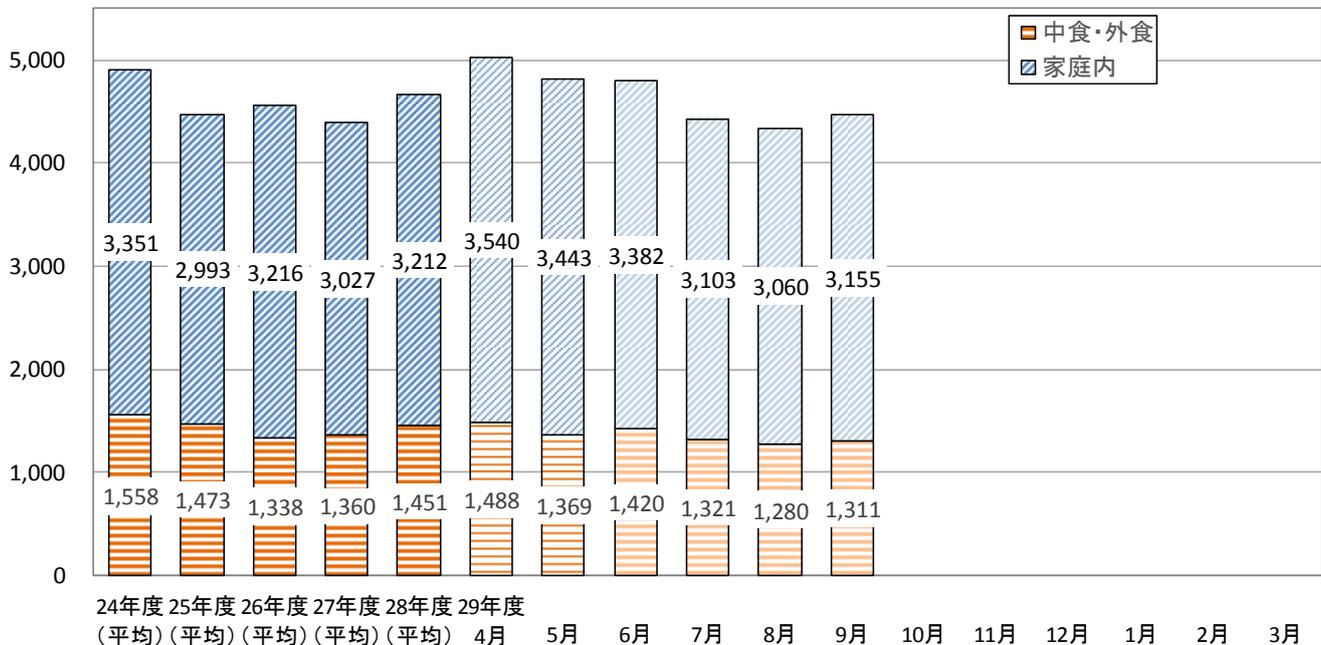
① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g/人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食		
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲5.9	▲4.2	▲8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲1.2	3.0	▲10.1	▲9.0	▲11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲0.1	3.6	▲7.7	▲5.3	▲11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲1.9	2.6	▲11.2	▲13.9	▲7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲4.4	▲1.5	▲10.8	▲12.6	▲8.5
	9月	4,466	3,155	1,311	740	571	100.0	70.6	29.4	16.6	12.8	▲3.1	▲0.7	▲8.4	▲12.0	▲3.2

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g/人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年9月分の有効調査世帯数は1,643世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

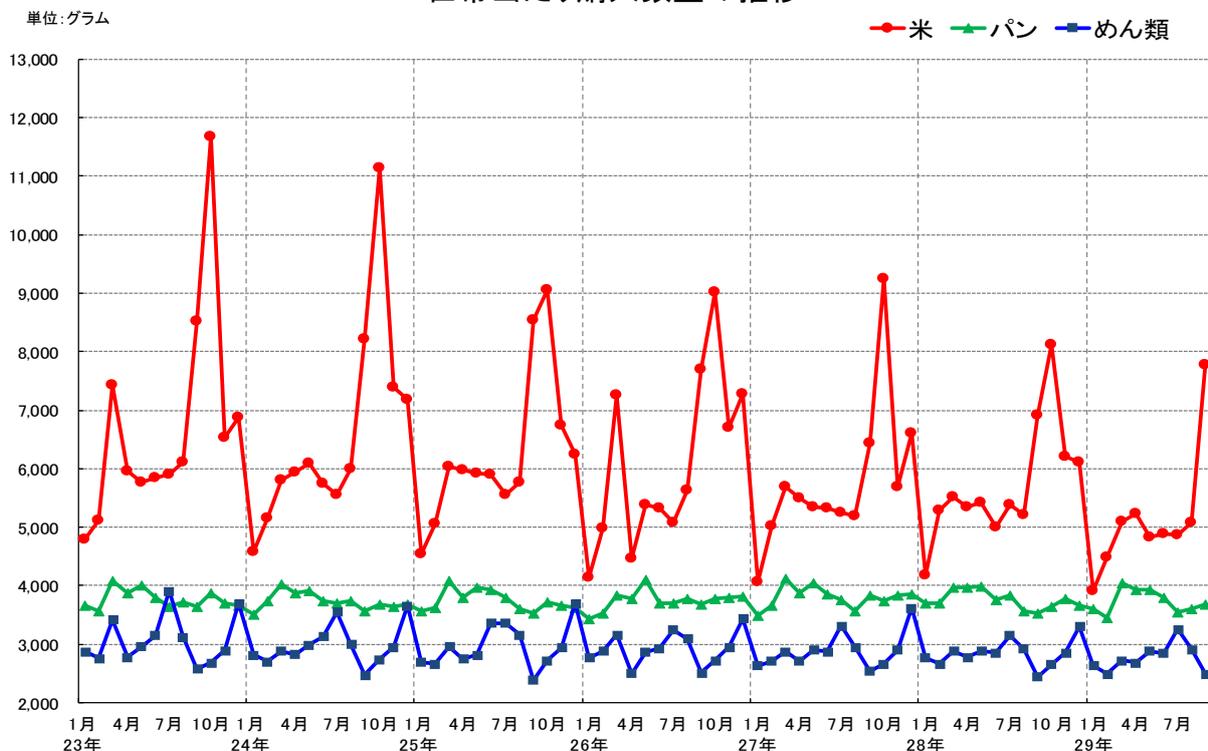
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年9月の米の購入数量は、前年同月との比較で+12.6%の7.8kg、パンについては+3.9%の3.7kg、めん類については+1.9%の2.5kg。

1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%
9月	7,780	112.6%	3,674	103.9%	2,490	101.9%

資料： 総務省「家計調査」

注： 1 二人以上の世帯の数値である。

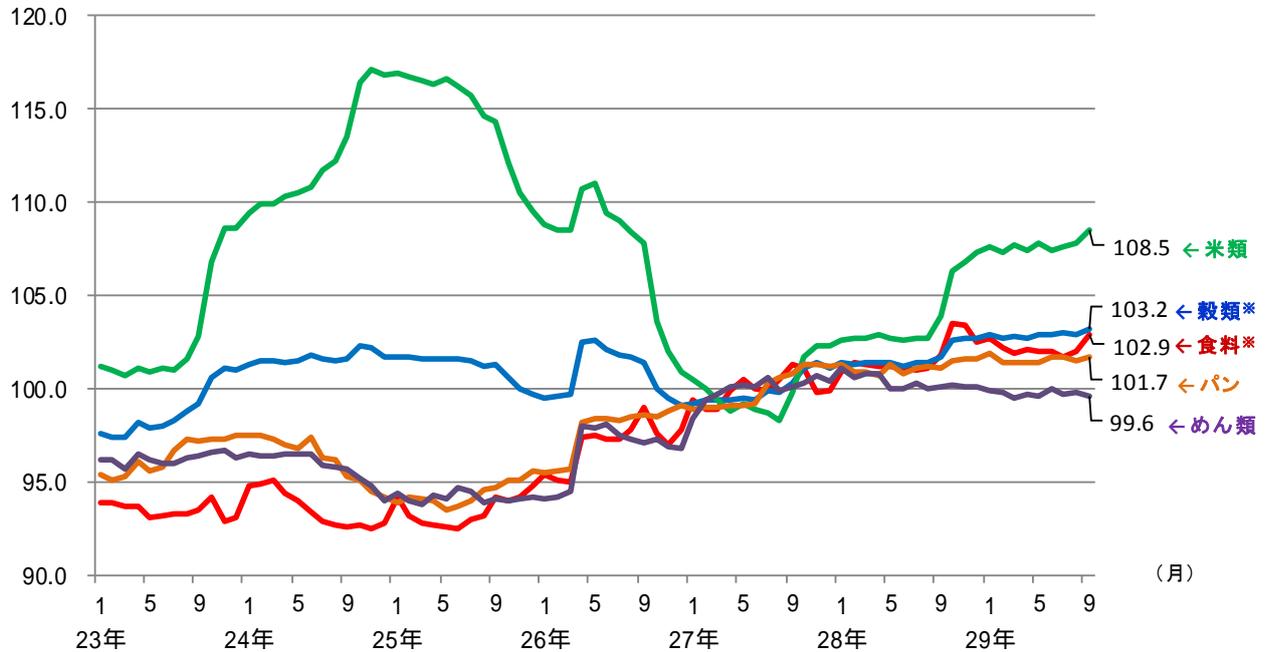
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年9月の米類の指数は、先月との比較では+0.7の108.5ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.4ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成29年9月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

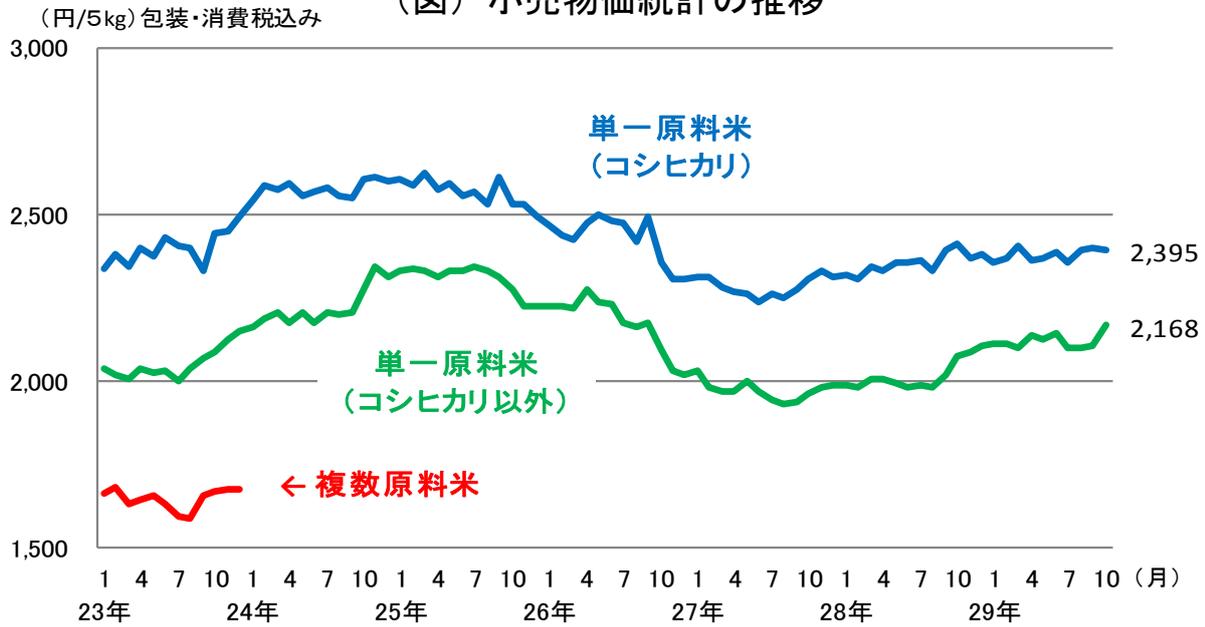
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比											
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%
9月	102.9	1.0%	103.2	1.4%	108.5	4.4%	108.9	4.6%	101.7	0.5%	99.6	▲0.5%

- 資料： 総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）
 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年10月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より▲0.7%の2,395円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.3%の2,168円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	-
10月	2,395	▲0.7%	2,168	4.3%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

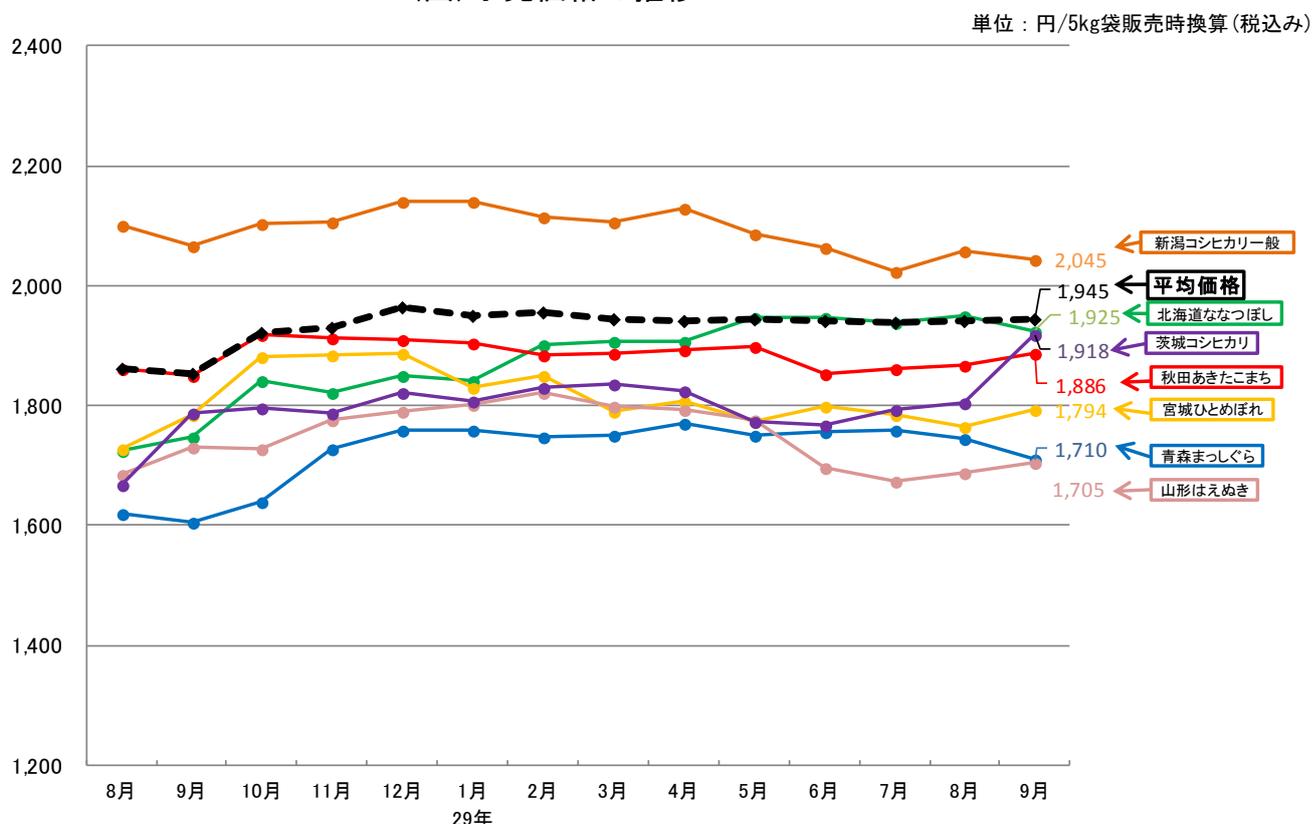
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年9月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+3円(+0.1%)、前年同月より+92円(+5.0%)の1,945円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
対前月比	▲ 1.3%	▲ 2.0%	1.6%	0.9%	1.1%	6.2%	▲ 0.6%	0.1%
対前年同月比	10.2%	6.6%	0.5%	2.0%	▲ 1.6%	7.2%	▲ 1.0%	5.0%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,010店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータを把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タイ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	うち	
							一般輸入	SBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (10月末現在)	132	122	14	33	-	301	276	25

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分	30,935		
7月分	206		
8月分	602		
9月分	1,073		
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	65,125	小計	3,071
合計	68,196		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140	0	900	0	5,814	0	22,500
	砕精米	1,998	100	300	0	100	0	0	0	2,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

VIII その他

(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成29年9月30日現在の検査数量は、146万トン。
- 1等米比率は、80.8%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	
29	13	244	1,463							
参考：前年比	72%	105%	88%							

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,584,593	3,824,029	635,059	62,986	62,518	83.4	13.9	1.4	1.4
29(注3)	1,462,818	1,181,743	244,737	26,086	10,253	80.8	16.7	1.8	0.7

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年9月30日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（子実用）			10 a 当たり 予想収量 ②	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤ = ③ / ④
		対差	対比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,465,000	△ 13,000	99	534	517	518	100
北 海 道 (2)	103,900	△ 1,100	99	560	546	530	103
青 森 (3)	43,400	800	102	596	576	573	101
岩 手 (4)	49,800	△ 500	99	533	511	522	98
宮 城 (5)	66,300	△ 300	100	535	512	519	99
秋 田 (6)	86,900	△ 300	100	574	550	556	99
山 形 (7)	64,500	△ 500	99	598	578	580	100
福 島 (8)	64,000	△ 200	100	549	529	527	100
茨 城 (9)	68,100	△ 1,200	98	525	510	515	99
栃 木 (10)	57,600	200	100	510	492	529	93
群 馬 (11)	15,500	100	101	499	481	479	100
埼 玉 (12)	31,600	△ 100	100	494	478	475	101
千 葉 (13)	55,200	△ 500	99	543	529	528	100
東 京 (14)	141	△ 10	93	411	400	404	99
神 奈 川 (15)	3,090	△ 30	99	509	488	478	102
新 潟 (16)	116,300	△ 500	100	526	505	527	96
富 山 (17)	37,600	△ 500	99	546	528	527	100
石 川 (18)	25,300	△ 300	99	519	504	507	99
福 井 (19)	24,900	△ 200	99	525	503	500	101
山 梨 (20)	4,960	△ 30	99	549	531	533	100
長 野 (21)	32,300	△ 400	99	629	616	607	101
岐 阜 (22)	21,900	△ 300	99	488	479	478	100
静 岡 (23)	15,700	△ 300	98	515	506	513	99
愛 知 (24)	27,500	△ 200	99	512	503	499	101
三 重 (25)	27,400	△ 200	99	480	466	489	95
滋 賀 (26)	31,700	△ 200	99	517	504	506	100
京 都 (27)	14,700	△ 100	99	510	501	502	100
大 阪 (28)	5,150	△ 160	97	506	490	480	102
兵 庫 (29)	36,600	△ 400	99	502	491	489	100
奈 良 (30)	8,610	△ 100	99	522	510	500	102
和 歌 山 (31)	6,560	△ 160	98	507	496	484	102
鳥 取 (32)	12,600	△ 100	99	520	510	504	101
島 根 (33)	17,500	△ 200	99	519	510	500	102
岡 山 (34)	30,100	△ 300	99	544	530	514	103
広 島 (35)	23,700	△ 400	98	534	524	513	102
山 口 (36)	20,300	△ 700	97	522	508	492	103
徳 島 (37)	11,500	△ 200	98	480	476	469	101
早期栽培 (38)	4,450	△ 20	100	481	477	459	104
普通栽培 (39)	7,080	△ 100	99	479	475	475	100
香 川 (40)	12,800	△ 400	97	484	480	490	98
愛 媛 (41)	13,900	△ 300	98	508	503	492	102
高 知 (42)	11,600	△ 200	98	470	466	454	103
早期栽培 (43)	6,500	△ 80	99	498	495	477	104
普通栽培 (44)	5,060	△ 120	98	435	430	426	101
福 岡 (45)	35,700	△ 300	99	509	488	477	102
佐 賀 (46)	24,600	△ 200	99	536	516	503	103
長 崎 (47)	11,600	△ 400	97	495	469	463	101
熊 本 (48)	33,300	△ 500	99	527	508	497	102
大 分 (49)	21,000	△ 300	99	508	484	480	101
宮 崎 (50)	16,300	△ 500	97	499	485	482	101
早期栽培 (51)	6,460	△ 270	96	494	486	470	103
普通栽培 (52)	9,870	△ 130	99	503	485	490	99
鹿 児 島 (53)	20,400	△ 600	97	487	468	469	100
早期栽培 (54)	4,460	△ 150	97	472	464	434	107
普通栽培 (55)	16,000	△ 400	98	491	469	478	98
沖 縄 (56)	727	△ 58	93	305	300	305	98
第一期稲 (57)	537	△ 23	96	354	350	363	96
第二期稲 (58)	190	△ 35	84

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。
 3 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10a当たり予想収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

予想収穫量（子実用）			参 考		
実 数 ⑥=①×②	前年産との比較		主 食 用 作 付 見 込 面 積 ⑦	予 想 収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑧=⑦×②	
	対差	対比			
t	t	%	ha	t	
7,825,000	△ 217,000	97	1,370,000	7,309,000	(1)
581,800	3,200	101	98,600	552,200	(2)
258,700	1,400	101	38,000	226,500	(3)
265,400	△ 6,200	98	47,000	250,500	(4)
354,700	△ 14,300	96	63,500	339,700	(5)
498,800	△ 16,600	97	69,500	398,900	(6)
385,700	△ 9,500	98	56,400	337,300	(7)
351,400	△ 4,900	99	59,900	328,900	(8)
357,500	△ 3,600	99	66,400	348,600	(9)
293,800	△ 22,500	93	53,600	273,400	(10)
77,300	△ 500	99	13,900	69,400	(11)
156,100	△ 500	100	30,700	151,700	(12)
299,700	△ 6,100	98	53,300	289,400	(13)
580	△ 47	93	141	580	(14)
15,700	300	102	3,090	15,700	(15)
611,700	△ 66,900	90	100,300	527,600	(16)
205,300	△ 10,300	95	33,300	181,800	(17)
131,300	△ 5,400	96	23,200	120,400	(18)
130,700	△ 3,600	97	23,300	122,300	(19)
27,200	△ 100	100	4,880	26,800	(20)
203,200	△ 800	100	31,300	196,900	(21)
106,900	△ 1,000	99	21,500	104,900	(22)
80,900	△ 3,100	96	15,600	80,300	(23)
140,800	△ 3,500	98	26,600	136,200	(24)
131,500	△ 12,600	91	26,800	128,600	(25)
163,900	△ 6,400	96	30,000	155,100	(26)
75,000	△ 1,400	98	14,100	71,900	(27)
26,100	△ 700	97	5,150	26,100	(28)
183,700	△ 1,700	99	35,100	176,200	(29)
44,900	△ 800	98	8,580	44,800	(30)
33,300	△ 800	98	6,560	33,300	(31)
65,500	△ 800	99	12,400	64,500	(32)
90,800	△ 2,700	97	17,200	89,300	(33)
163,700	1,700	101	29,100	158,300	(34)
126,600	△ 1,400	99	23,100	123,400	(35)
106,000	△ 1,500	99	19,300	100,700	(36)
55,200	△ 2,100	96	11,300	54,200	(37)
21,400	△ 100	100	(38)
33,900	△ 1,800	95	(39)
62,000	△ 5,100	92	12,800	62,000	(40)
70,600	△ 1,500	98	13,900	70,600	(41)
54,500	500	101	11,500	54,100	(42)
32,400	800	103	(43)
22,000	△ 200	99	(44)
181,700	1,300	101	35,100	178,700	(45)
131,900	2,700	102	24,400	130,800	(46)
57,400	△ 2,100	96	11,600	57,400	(47)
175,500	△ 2,600	99	32,200	169,700	(48)
106,700	△ 700	99	20,900	106,200	(49)
81,300	△ 2,400	97	15,000	74,900	(50)
31,900	900	103	(51)
49,600	△ 2,700	95	(52)
99,300	△ 2,100	98	19,600	95,500	(53)
21,100	1,300	107	(54)
78,600	△ 3,100	96	(55)
2,220	△ 80	97	727	2,220	(56)
1,900	△ 70	96	(57)
...	(58)

4 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「...」で示している。

5 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「...」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平均収量を用いた。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I	契約・在庫情報	
(1)	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
(2)	産地別事前契約数量(累計、うるち米、平成26年産から29年9月末) (速報)	9
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	15
	① 日本コメ市場(随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス(取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外(輸出を含む)	
(1)	加工用米及び新規需要米の取組状況等	18
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況(平成28年産、都道府県別)	
(2)	飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	20
(3)	政府備蓄米の運営	21
	備蓄米の買入入札の結果(落札実績)(平成23~29年産)	
(4)	商業用の米の輸出量及び金額の推移	22
(5)	2016年の主な増加要因(輸出業者等からのヒアリング結果による)	23
(6)	米菓の輸出量及び金額の推移	24
(7)	日本酒(清酒)の輸出量及び金額の推移	25
IV	消費動向	
(1)	米の消費動向(米穀機構による調査)	26
(2)	小売価格の推移(POSデータ、主な銘柄)	29
V	その他	
(1)	米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年10月分)	30
(2)	平成28年産水陸稲の収穫量	35
(3)	水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移(全国)	38
(4)	水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a当たり収量及び収穫量(子実用)の年次別推移	38
(5)	麦・大豆の需要情報	40
	① 30年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(6)	野菜等の需給情報	46
(7)	米の安定取引研究会報告書の概要	49

米に関するマンスリーレポート(本編・資料編)は、農林水産省のホームページからご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

大規模生産法人、農協等の皆様向けパンフレット

出展無料
大規模生産法人、農協等の皆様へ

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア 2017

産地
大規模生産法人、農協等

実需者
中食・外食事業者等

【開催時期】 平成29年9月～平成30年2月
 【開催場所】 全国10か所（11回開催）
 札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年度米から行取による生産調整目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに合わせた生産を行い、複数年契約や増産前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催・株式会社 グレイブ・エス・ピー
 共催・株式会社 グレイブ・エス・ピー
 〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
 Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0700
 E-mail: kome-matching@graylab.co.jp

お問い合わせ
 株式会社 グレイブ・エス・ピー
 米マッチングフェア2017事務局 末田、小林
 E-mail: kome-matching@graylab.co.jp

米マッチングフェア2017 産地向け募集説明会 のご案内

産地向け募集説明会 開催スケジュール

- 【開催スケジュール】 受付 13:00 開催 13:30～16:00
- 札幌会場** 平成29年6月23日(金) (北海道農政事務所 大会議室)
北海道札幌市中央区南12条5丁目6-3-22 エムスエムビル202ビル9F
 - 仙台会場** 平成29年6月29日(木) (東北福祉大学 合同庁舎講堂)
宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 合同庁舎4棟9F
 - さいたま会場** 平成29年6月20日(火) (国庫建設局 共用小売倉庫5C)
埼玉県さいたま市中央区新郷2-1-1 さいたま新街同庁舎2号館5F
 - 東京会場** 平成29年6月27日(火) (TKP 神田ビジネスセンター ANNEX ホール8E)
東京都千代田区神田東上町1-1 住友不動産神田ビル8F
 - 金沢会場** 平成29年7月20日(木) (TKP 金沢ビジネスセンター カンファレンスルーム9A)
石川県金沢市上通町1-33-1 アパルメントビル9F
 - 名古屋会場** 平成29年7月14日(金) (静岡県政庁 第1会議室)
愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2 愛海建設ビル1F
 - 京都会場** 平成29年7月12日(火) (TKP 京都市東区丸太町カンファレンスセンター カンファレンスルーム10)
京都府京都市下京区西塩町東区丸太町10番 コーポレートビル1F
 - 大阪会場** 平成29年7月11日(火) (TKP 新大阪カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A)
大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1-4 KOX新大阪ビル1F
 - 岡山会場** 平成29年7月24日(月) (中国四国建設局 会議室A・B)
岡山県岡山市北区下石町1-4-1 同庁舎 0F
 - 熊本会場** 平成29年7月5日(水) (TKP ガーデンシティ熊本 本館101)
熊本県熊本市中央区下通1-3-10 ガラパゴスビル1F

産地向けの募集説明会に参加希望される方へ

産地向けの募集説明会は、平成29年6月より開始会とセミナーの順番に、産地（大規模生産法人、農協等）の代表を対象に開催いたします。

当日は、生産者より9月からの納品先セミナーの参加に際しての意向説明をはじめ、昨今の業務用途の米の動向や参加される方に必要なPR事項などもお伝えする予定です。

参加希望の方は、募集説明会の日程をご確認の上、参加希望日程日の3週間前までに事務局の申し込み書でアプリアップしたメールにてお申し込みください。

なお、募集説明会に参加された方を優先的に、展示商談会出席者として登録しますので、ご参加のほどよろしくお願いたします。

※この募集説明会は、各産地の組織員プロシットのみでのご案内となります。
 但し、事務局より追加の案内がある場合も承りますので、ご確認ください。

展示商談会に参加希望される方へ

東京・大阪開催、地方開催の「展示商談会セミナー」を各ページのスケジュールで開催、行います。

出席希望の生産者の方は、各自の参加会場と日程をご確認ください。

※産地と実需者による事前契約、複数年契約の締結、長期的な取引に際する展示商談会です。

※出展スペース：展示テーブル（180×60cm）を予定

※小規模代金は、送料です。ただし、そのほかの運賃費、会場までの交通・宿泊費等は各自でご負担ください。

※事務局主催の展示、出席登録料がでる、出席登録料の納入、登録料を要しない場合があります。

※本会事務局主催の場合は、先着順となりますことをご了承ください。

※ご参加の際は、事務局より案内書が送付されます。なお、ホームページにて詳細、最新情報をアップしますので、ぜひご覧ください。

展示商談会・セミナー のご案内

出展無料
大規模生産法人、
農協等の
皆様へ

展示商談会・セミナー（東京・大阪開催） 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場（TRC東京流通センター）

平成29年10月24日（火）・25日（水）

10:00～16:00 出展費35,000円（予定）

東京会場（TRC東京流通センター）

平成30年2月6日（火）・7日（水）

10:00～16:00 出展費35,000円（予定）

大阪会場（マイドームおおさか）

平成29年12月12日（火）・13日（水）

10:00～16:00 出展費35,000円（予定）

■展示商談会の内容

- 出展者コーナー
- 相談コーナー

■セミナー内容

- セミナー1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00
- 安眠剤の処方事例、実習室に求められる米と水等、豊富な経験を持つ方々の講演を予定



展示商談会・セミナー+現地交流会（地方開催） 各2日間

18日 各展示商談会 10:00～16:00 セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00

■展示商談会の内容

- 出展者コーナー
- 相談コーナー

■セミナー

- 安眠剤の処方事例、実習室に求められる米と水等、豊富な経験を持つ方々の講演を予定

28日 現地交流会

- 現地交流会
- 開場、ライスセンター等を視察し、産地の生産者との意見交換を行う

【開催スケジュール】

札幌会場（札幌コンベンションセンター）

平成29年11月29日（水）・30日（木）

仙台会場（サンフエスタ）

平成29年11月22日（水）・23日（木）

さいたま会場（大宮ソニックシティ）

平成29年9月6日（水）・7日（木）

金沢会場（金沢流通会館）

平成29年12月7日（木）・8日（金）

名古屋会場（吹上ホール）

平成29年9月29日（金）・30日（土）

京都会場（みやこメッセ）

平成29年9月20日（水）・21日（木）

岡山会場（コンベックス岡山）

平成29年10月31日（火）・11月1日（水）

熊本会場（グランメッセ熊本）

平成29年10月3日（火）・10月4日（水）



産地向け募集説明会 の参加申込書

- 申し込み方法：①下記開催日の場所にご記入ください。
- ②本用紙に参加情報を記入のうえ、FAXまたはメールでお申し込みください。
- 申し込み締切：参加希望会期前の1週間前までにお申し込みください。

【注意事項】

※事務局からお申し込みいただいたままの通付手段（FAXまたはメール）にて、後日受付完了のご連絡を差し上げます。
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご家族氏名など下記の内容を必ず記載してください。
※席は多く用意しておりますが、定数いっぱいになりましたら受付終了とさせていただきます。あらかじめご了承ください。
※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催当日は、各種ご来場をご持参ください。

○開催場所チェック欄

- | | | | |
|---|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> 札幌会場
6月23日（金） | <input type="checkbox"/> 仙台会場
6月29日（木） | <input type="checkbox"/> さいたま会場
6月20日（火） | <input type="checkbox"/> 東京会場
6月27日（火） |
| <input type="checkbox"/> 金沢会場
7月20日（木） | <input type="checkbox"/> 名古屋会場
7月14日（金） | <input type="checkbox"/> 京都会場
7月12日（水） | <input type="checkbox"/> 大阪会場
7月11日（火） |
| <input type="checkbox"/> 岡山会場
7月24日（月） | <input type="checkbox"/> 熊本会場
7月5日（水） | | |

※一部の席に定員がある場合があります。
あらかじめご了承ください。

○参加者申し込み記入欄

フリガナ 会社・団体名	担当署名			役職
住 産	(平) ()			
電話番号	() () ()	FAX番号	() ()	
参加者 名		携帯電話	() ()	
		メールアドレス		

※ご記入いただいた個人情報は、米マッチングフェア事務局の所属、関係者以外に提供いたしません。

【お問い合わせ】

株式会社 グレイン・エス・ピー
米マッチングフェア2017事務局：東田、小井
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708

米マッチングフェア2017 募集説明会 <https://kome-matching.com>

FAXにてお申し込みください

送信先FAX
03-3816-0708

メールで申し込み場合には
kome-matching@grainsp.co.jp

中食・外食事業者等の皆様向けパンフレット

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア 2017

産地
大規模生産法人、農協等

実需者
中食・外食事業者等

※**来場無料**
※**必ず事前申し込みを!**
中食・外食事業者等の皆様へ

【開催時期】
平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所(11回開催)

札幌、仙台、さいたま、東京(2回)、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅固な需要が見込まれます。

平成30年度産米から行政による生産数量目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の供給先を開拓しませんか？

※本イベントは、農林水産省「産地と実需者の安定取引」を推進する取組の一環として開催されるものであり、農産物の販売促進を目的とするものではありません。
※本イベントは、農林水産省「産地と実需者の安定取引」を推進する取組の一環として開催されるものであり、農産物の販売促進を目的とするものではありません。

お問い合わせ先
株式会社グレイン・エス・ピー
米マッチングフェア2017事務局：東京・小株
〒119-0054 東京都文京区湯島2-19-5 国島ビル3F
Tel. 03-3418-0872 Fax. 03-3418-0708
E-mail: kono.matching@grain.jp

米マッチングフェア2017
展示商談会・セミナー
のご案内

展示商談会・セミナー(東京・大阪) 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場 TRC東京流通センター(東京都大田区平和島6-1-1)

平成29年10月24日(火)・25日(水)

東京会場 TRC東京流通センター(東京都大田区平和島6-1-1)

平成30年2月6日(火)・7日(水)

大阪会場 マイドームおおさか(大阪府大阪市中央区本町橋2-5)

平成29年12月12日(火)・13日(水)

各地 展示商談会 10:00～16:00(売り手約35ブース/日)

■展示商談会の内容

- 産地コーナー(産地 産地のコーナーを設け)
- 出張紹介コーナー(出張者に目標の産地、試食等)

セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00(各100名)

■セミナー

- 産地と実需者による事前契約、播種前契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題を重点的に取り扱うための米産地を招待しております。
- 米産地と実需者とのマッチングを目的としたセミナー(産地と実需者の安定取引)を開催いたします。



展示商談会



セミナー

展示商談会に登場される方へ

本主題と実需者による事前契約、播種前契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題を重点的に取り扱うための米産地を招待しております。

来場される
中食・外食
事業者等の
皆様へ

※マッチングフェア2017

展示商談会・セミナー のご案内

展示商談会・セミナー+現地交流会(地方8ヶ所) 各2日間

【開催スケジュール】

- 札幌会場 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)
平成29年11月29日(水)・30日(木)
- 仙台会場 サンフェスタ(宮城県仙台市若林区郡町2丁目15-2)
平成29年11月22日(水)・23日(木)
- さいたま会場 大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5)
平成29年9月6日(水)・7日(木)
- 金沢会場 金沢流通会館(石川県金沢市問屋町2丁目61番)
平成29年12月7日(木)・8日(金)
- 名古屋会場 吹上ホール(愛知県名古屋市中区吹上2-6-3)
平成29年9月29日(金)・30日(土)
- 京都会場 みよこメッセ(京都市京都市右京区岡崎成徳寺町9-1)
平成29年9月20日(水)・21日(木)
- 岡山会場 コンベンクス岡山(岡山県岡山市北区大井町675)
平成29年10月31日(火)・11月1日(水)
- 熊本会場 グランメッセ熊本(熊本県上益城郡益城町福岡1010)
平成29年10月3日(火)・10月4日(水)

1日目 各展示商談会 10:00~16:00 (売り手約25ブース/日)
セミナー 1部 11:00~12:00 2部 14:00~15:00

■展示商談会の内容
● 相談コーナー(個別相談のコーナーを用意)
● 出展紹介コーナー(出展者ご自身のお米紹介、試食等) 豊富な情報を待つお客様の皆様を予定

2日目 現地交流会 10:00~16:00 50名(1日目の開催地から1次で現地へ移動します)
● 現地の農産物、ライスセンター等を視察し、現地の生産者や農産関係者等との意見交換を行い取引の発展を深めていきます。

中食・外食事業者等の皆様へ ※マッチングフェア2017 展示商談会・セミナーの来場申込書

【申し込み方法】

①下記開催日の会場別に☑を、また参加予定人数をご記入ください。(複数可)

②本用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールで「 Matchingフェア2017」にお申し込みください。

【申し込み時期】

来場希望日の前日の1週間前までにお申し込みください。
※申し込み締め切りの場合は、9月30日まで

○東京・大阪 来場予定チェック欄

東京会場 (10/24~25)	名
大阪会場 (12/12~13)	名
東京会場 (2/6~7)	名

会社・団体名	〒
担当者名	部署
住所	
電話番号	()
FAX番号	()
メールアドレス	
携帯番号	()

※記入しなくてもよい欄は、マッチングフェア事務局の担当者へお電話でご確認ください。

○地方 来場予定チェック欄 (18日：展示商談会・セミナー、28日：現地交流会)

札幌会場 (11/29~30)	名	名古屋会場 (9/29~30)	名
仙台会場 (11/22~23)	名	京都会場 (9/20~21)	名
さいたま会場 (9/6~7)	名	岡山会場 (10/31~11/1)	名
金沢会場 (12/7~8)	名	熊本会場 (10/3~4)	名

※事務局からお申し込みいただきましたお客様は、お申し込みの届いた日(18日)より、開催地の1週間前までに、開催地のご滞留を差し上げます。
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご滞留先など下部の情報を必ず記載してください。
開催地の現地交流会の会場には、自由にお入りいただけますが、セミナー会場、現地交流会会場は事前に預かりがございますので、申し込み
順で締め切らせていただきます。申し込み順が満席となります。あらかじめご了承ください。
※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担となります。また、地方開催での3日目の現地交流会に参加され
る方は、宿泊費、自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催日は、各種アクセスをご確認ください。

【お問い合わせ】
株式会社グレイイン・エス・ピー
 Matchingフェア2017事務局 末田、小林
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル4F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708
●メールで申し込ませば、
kome-matching@grainsp.co.jp

【詳しくはホームページをご覧ください】
 Matchingフェア2017 <https://home-matching.com>
FAXにてお申し込みください
送信先 FAX
03-3816-0708

飼料用米を活用した畜産物のブランド力強化を進めるため、飼料用米を生産する農家と連携しながら、従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」が開催されます。

飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発

募集中! 平成29年8月~11月末



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬 (東京都内)

●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)
H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス
→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>